

アンケート実施結果

1. アンケート実施概要①

(1) 調査目的	「静岡県令和6年度ケアマネジメント業務AI導入支援事業」の効果検証として、ケアマネジメント支援システム「SOIN(そわん)」を利用する前後でアンケート調査を実施し、その差異を分析することにより、効果を検証する。
(2) 調査対象	・静岡県内居宅介護支援事業所のケアマネジャー ・静岡県内地域包括支援センター職員
(3) 調査対象数	22名
(4) 有効回答数	21名(1名未回答)
(5) 回答率	事前アンケート:95.5% 事後アンケート:95.5%

1. アンケート実施概要②

アンケート項目一覧(大項目)

AI利用前アンケート

- 1、ケアマネジメント業務について
- 2、アセスメント業務について
- 3、ケアプラン作成業務について
- 4、サービス担当者会議等調整業務について
- 5、新人教育・自己学習について
- 6、AIについて

AI利用後アンケート

- 1、SOIN利用実績
- 2、ケアマネジメント業務について
- 3、アセスメント業務について
- 4、ケアプラン作成業務について
- 5、サービス担当者会議等調整業務について
- 6、新人教育・自己学習について
- 7、AIについて

2.事業参加者のまとめ①(年齢、ケアマネジャー歴、保有資格)

本事業は、事業参加者のうち21名の方がAIシステムを利用した。

事業参加者の年代、ケアマネジャーの経験年数、保有する資格について下記グラフで示す。

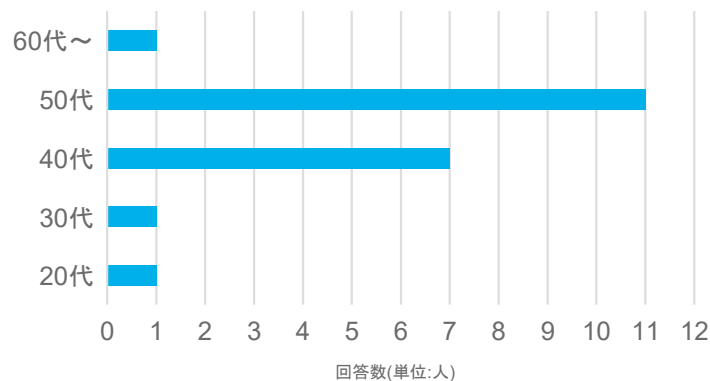


図1:回答者年代(n=21)

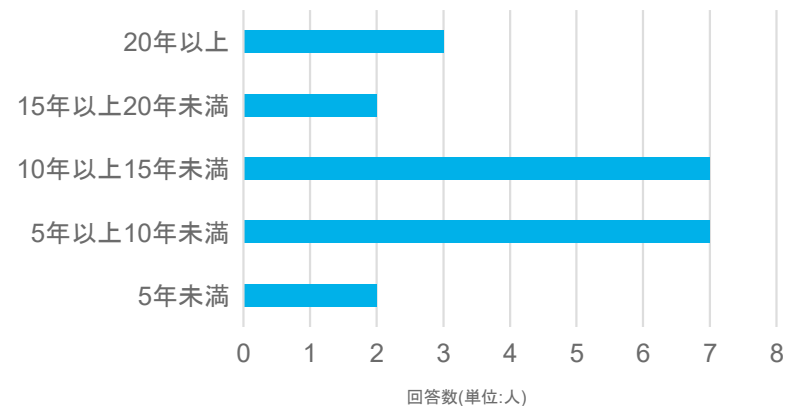


図2:ケアマネジャー:経験年数(n=21)

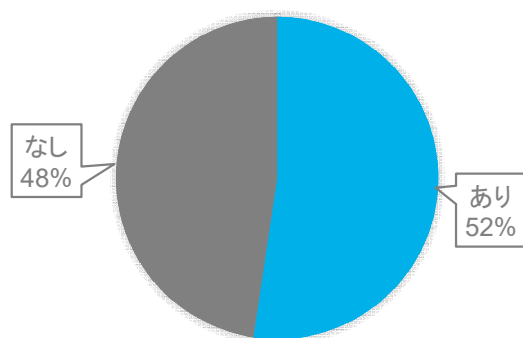


図3:主任介護支援専門員資格有無(n=21)

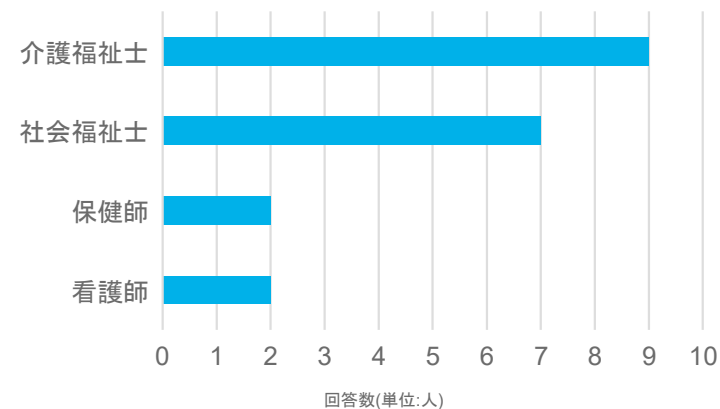


図4:介護支援専門員以外の保有資格(複数回答可)

2.事業参加者のまとめ②(担当件数、AIシステム登録数)

●AIシステムの利用状況

- ・実証事業期間中、全ての参加者がAIシステムを利用した。
- ・AIシステムへの登録件数は、半数以上の参加者が2～3件、多い方で10件の登録があった。

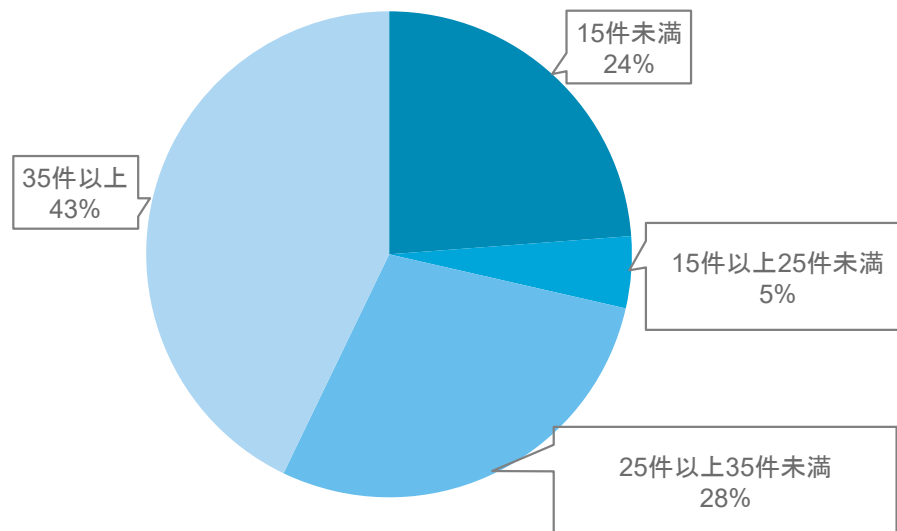


図5: 事業参加者の担当件数
(n=21)

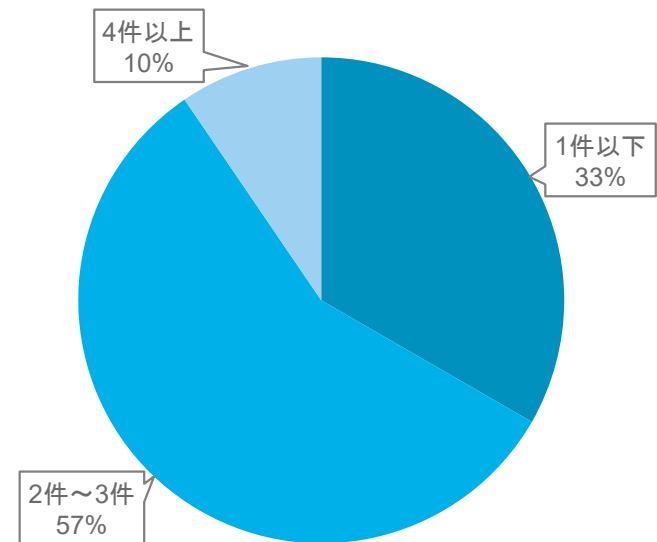


図6: 担当ケースのうち、AIシステムを利用したケースを確認
(n=21)

2.事業参加者のまとめ③(利用場面について)

●AIシステムの利用場面について

- ・ケアマネジャーがAIシステムを利用した場面は、主に「アセスメント」や「ケアプラン作成」に集中していることがわかる。
- ・また、「ケアマネジャーの知識の補完」や「インテーク」の場面でも一定の利用が見られ、システムが日々の業務をサポートしていることがうかがえる。

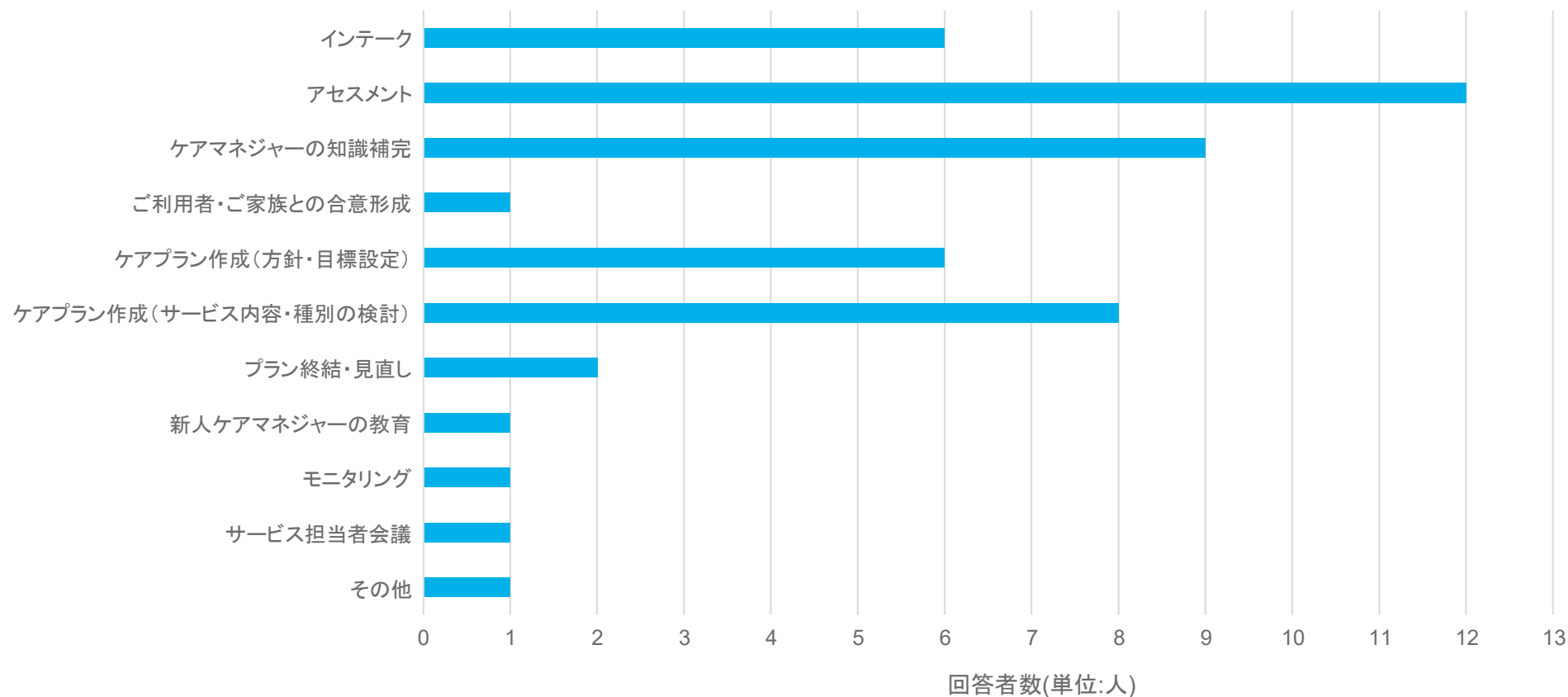


図7: AIシステム利用場面
(複数回答可)

2.事業参加者のまとめ④（自身の担当以外にAIシステムに登録した件数と利用場面）

●担当以外のAIシステムの利用状況

・ケアマネジャー自身が担当していないケースに対してAIシステムを利用している件数を見ると4件以上（1名）、2～3件（2名）、1件（2名）、0件（16名）、となっている。

・利用場面としては、「アセスメント」や「新人ケアマネジャーの教育」が挙げられており、担当外の事例に対してもケアマネジャーがAIシステムを利用し、知識補完や教育支援を行っている様子が見受けられる。また、「一般的な介護サービス利用の相談」にもAIシステムが利用されており、AIシステムが多様な業務に利用されたことが確認できた。

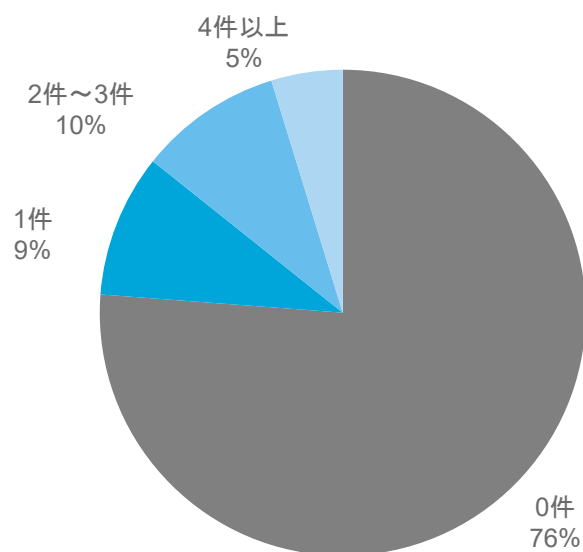


図8：事業参加者の担当件数
(n=21)

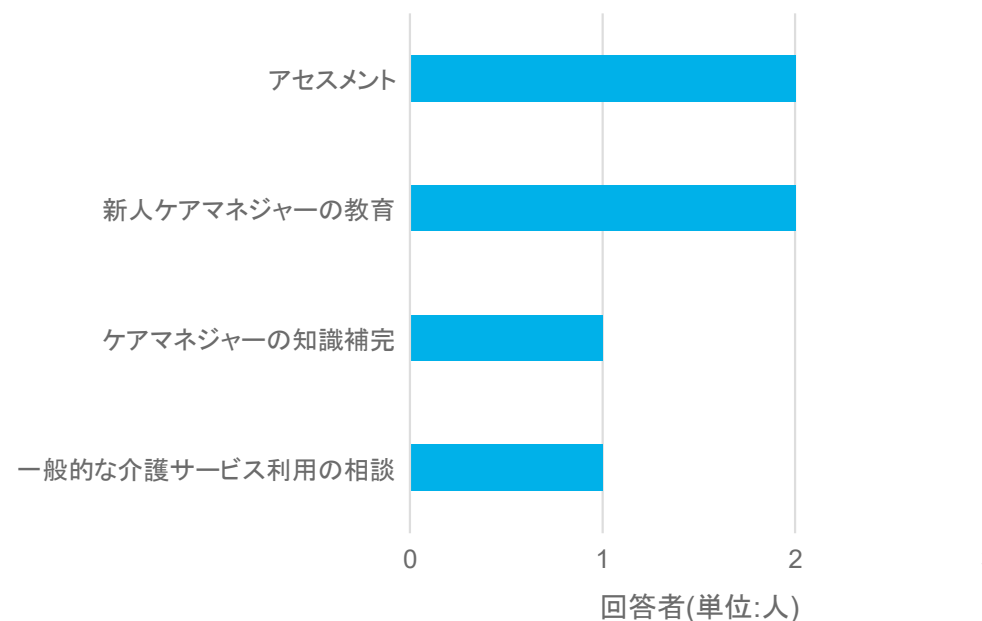


図9：利用者一人あたりの各機能の平均利用回数
(複数回答可)

3.ケアマネジメント業務について①

●「改善の可能性(自立支援)」を意識したケアマネジメントにAIがもたらす効果を確認した

・AIシステム導入前、利用者のADLや心身機能の「改善の可能性(自立支援)」を意識したケアマネジメントが「できていない」または「あまりできていない」と回答したケアマネジャーは37%いた。

・その37%のうち、AIシステム導入後に「変化があった」または「やや変化があった」と感じたケアマネジャーは71%に上った。

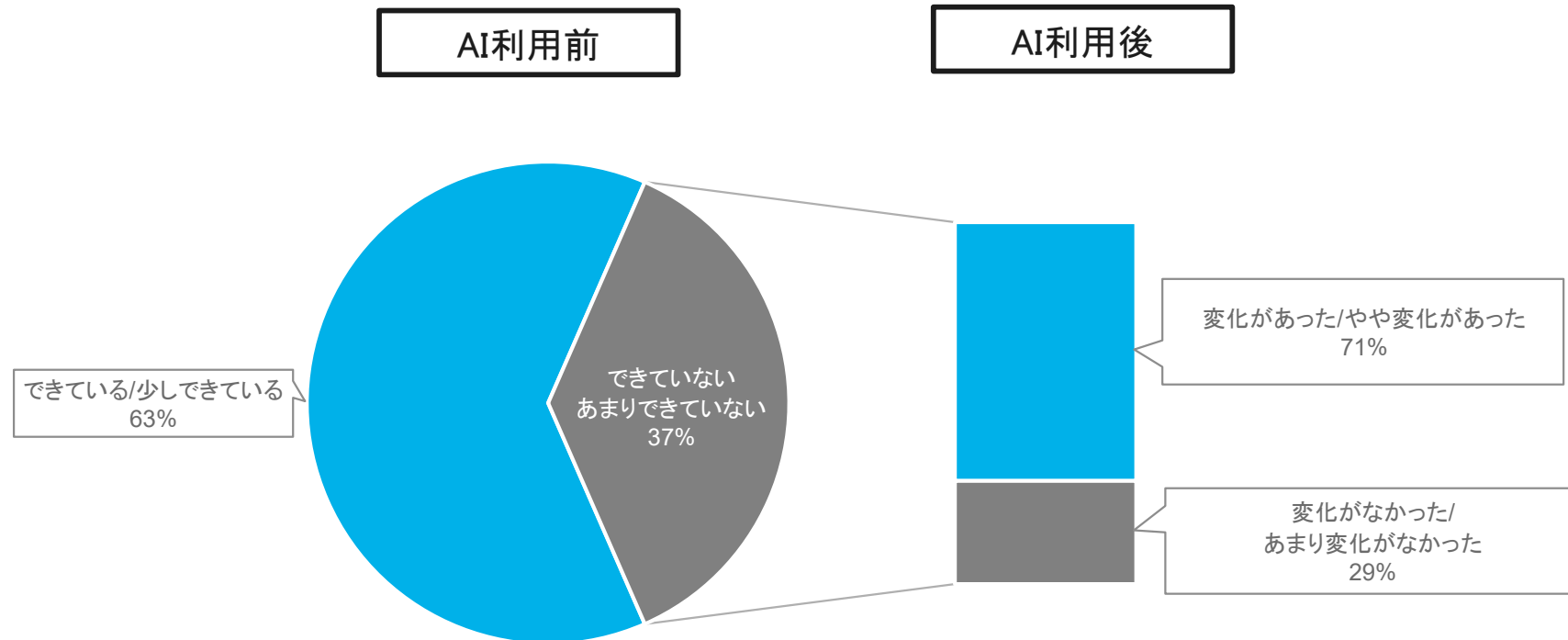


図10:「改善の可能性(自立支援)」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思うか確認 (n=21)

図11:「改善の可能性(自立支援)」を意識したケアマネジメント業務に、良い変化があったと思うか確認 (n=7)

3.ケアマネジメント業務について②

●「維持の可能性」を意識したケアマネジメントにAIがもたらす効果

・AIシステム導入前、利用者のADLや心身機能の「維持の可能性（自立支援）」を意識したケアマネジメントが「できていない」または「あまりできていない」と回答したケアマネジャーは24%いた。

・その24%のうち、AI利用後に「変化があった」または「やや変化があった」と感じたケアマネジャーは60%に上った。

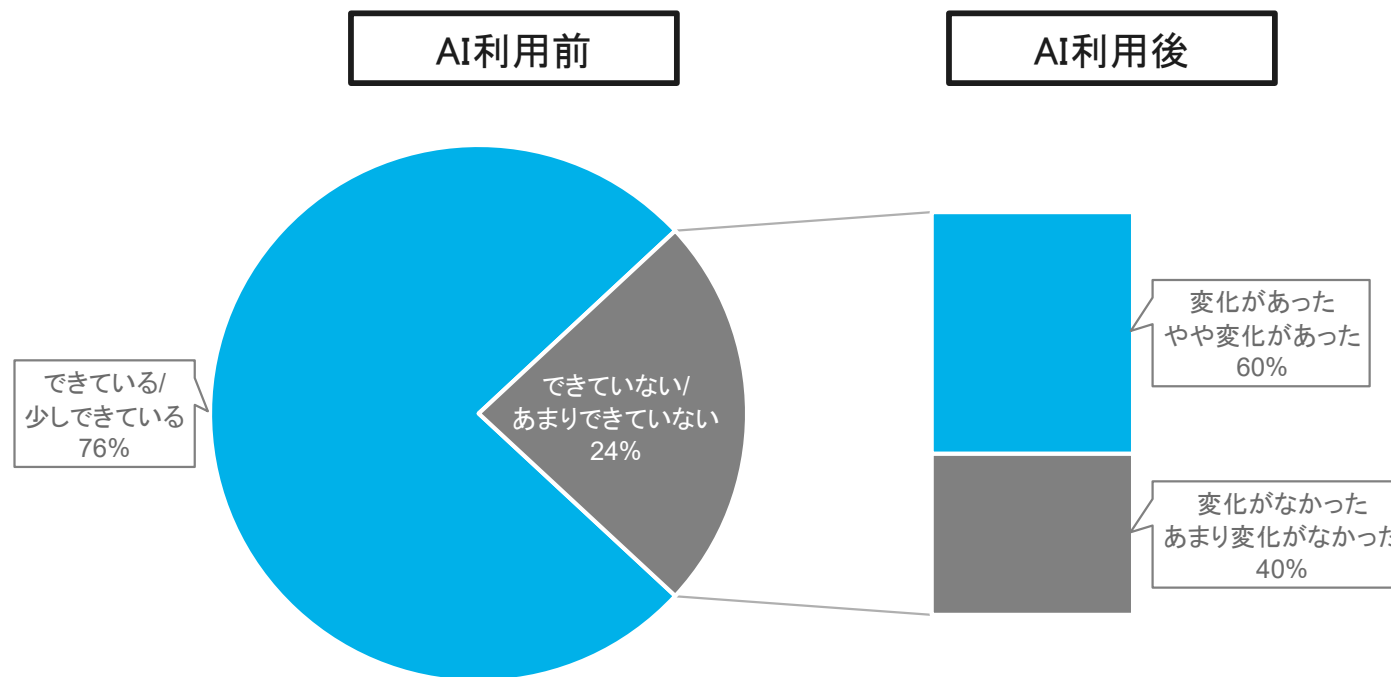


図12:「維持の可能性」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思うか確認 (n=21)

図13:「維持の可能性」を意識したケアマネジメント業務に、良い変化があったと思うか確認 (n=5)

3.ケアマネジメント業務について③

●「悪化のリスク」を意識したケアマネジメントにAIがもたらす効果

・AIシステム導入前、利用者のADLや心身機能の「悪化のリスク」を意識したケアマネジメントが「できていない」または「あまりできていない」と回答したケアマネジャーは29%いた。

・その29%のうち、AIシステム導入後に「変化があった」または「やや変化があった」と感じたケアマネジャーは83%に上った。

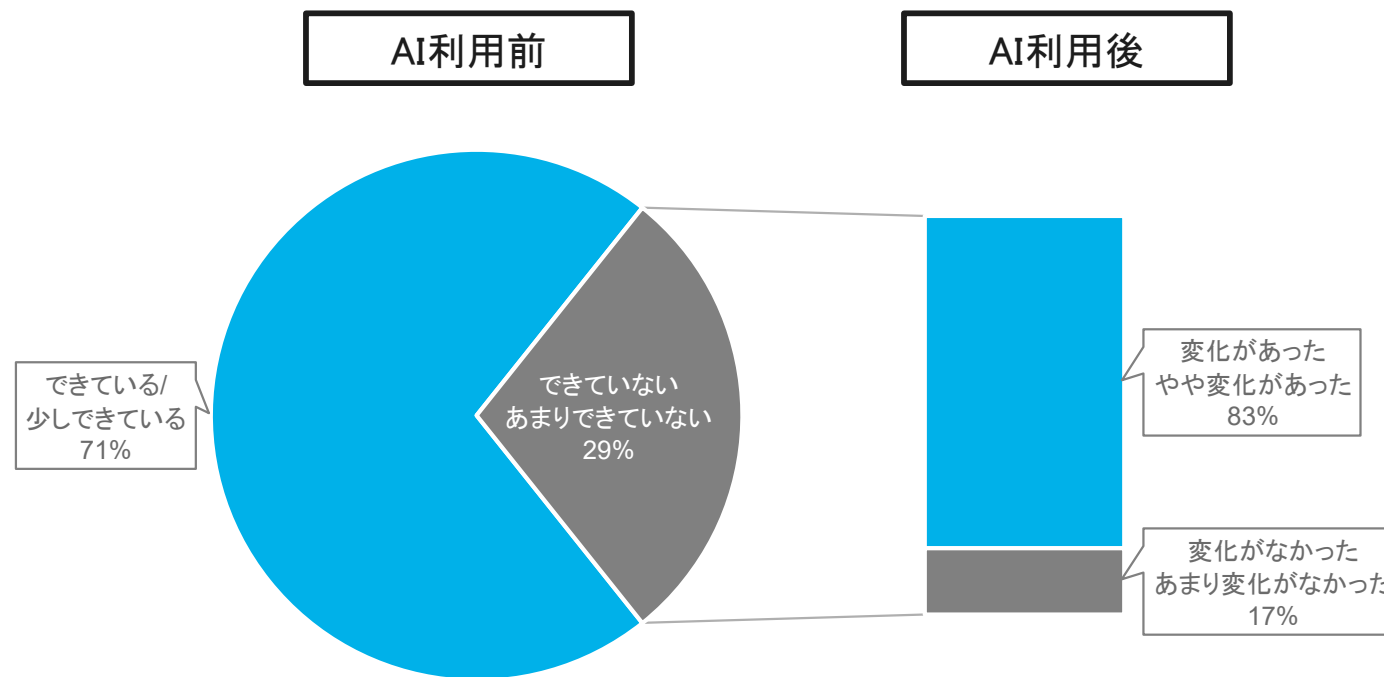


図14:「悪化のリスク」を意識したケアマネジメントが十分にできていると思うか確認
(n=21)

図15:「悪化のリスク」を意識したケアマネジメント業務に、良い変化があったと思うか確認
(n=6)

3.ケアマネジメント業務について④

●AIシステムの利用が「適切なケアマネジメント手法」に沿ったケアマネジメントに有効かを確認した

・AIシステム利用後で「適切なケアマネジメント手法」に基づく業務の負担が「軽減された」または「少し軽減された」と回答したケアマネジャーは53%いた。その理由として最も多かったのは、「適切なケアマネジメント手法の理解が深まった」(6名)と「確認がしやすくなった」(6名)であった。このことから、「適切なケアマネジメント手法」の活用に一定の効果があつたことが確認できた。

・また、「多職種連携の際に方針の共有がしやすくなった」(2名)、「事前準備が楽になった」(2名)といった意見もあり、チームでの情報共有や準備作業の効率化にも寄与していることがわかる。

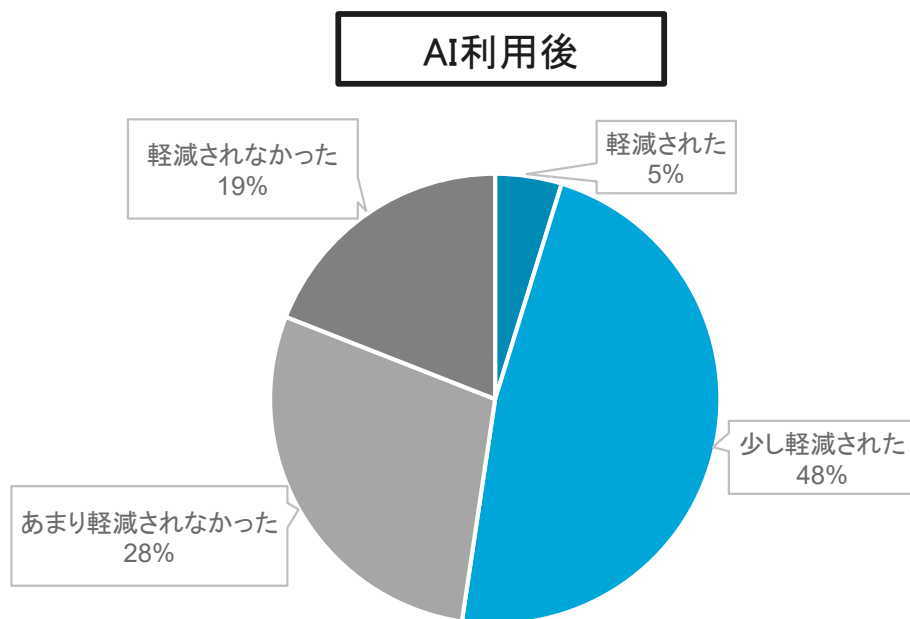


図16:AIシステムを活用することで「適切なケアマネジメント手法」の業務の負担は軽減されたか
(n=21)

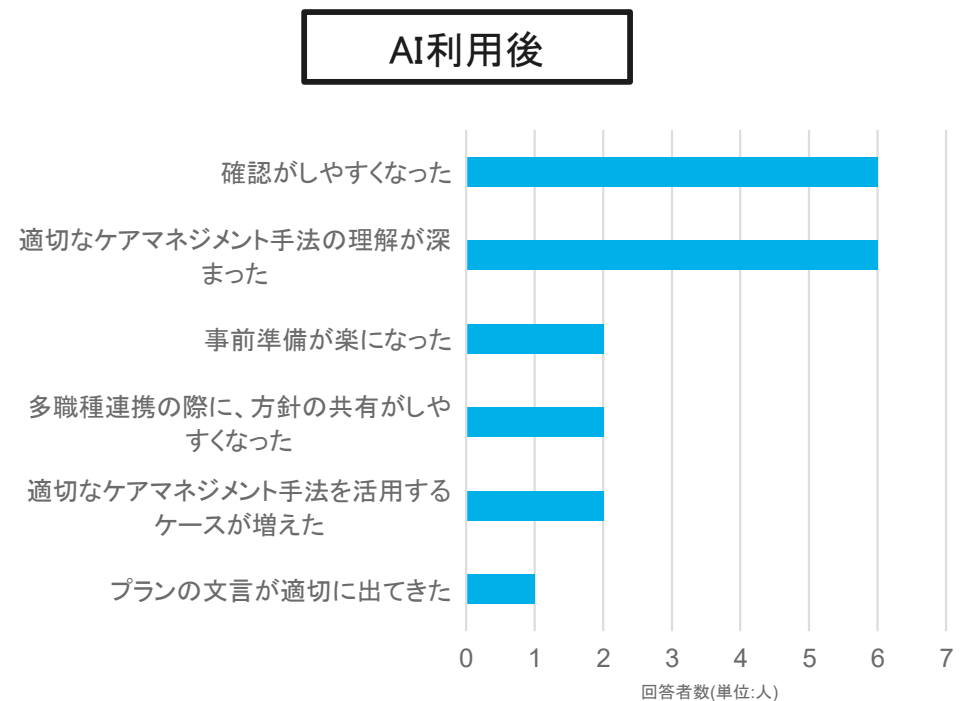


図17:図16の「軽減された」「少し軽減された」と回答された方の、負担軽減の要因を確認。(複数回答可)

4.アセスメント業務について①-1

●「聞き忘れた」、「視点不足」にAIがもたらす効果を確認

- ・アセスメント業務では、ケアマネジャーの95%が「聞き忘れ」「視点不足」を感じている。
- ・AIシステム利用後は、ケアマネジャーの43%が「減った」「少し減った」と回答した。
- ・AIの活用が業務の精度向上や負担軽減に寄与していることがうかがえる。

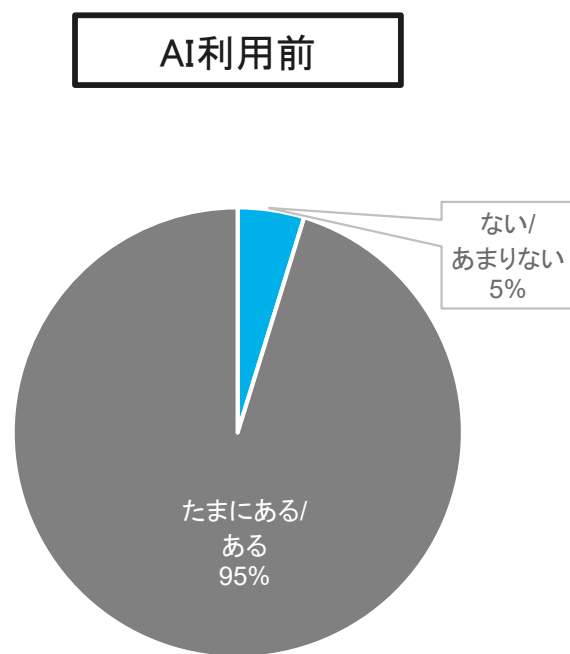


図18:訪問時に「聞き忘れた」、「視点不足」と感じたことを確認。
(n=21)

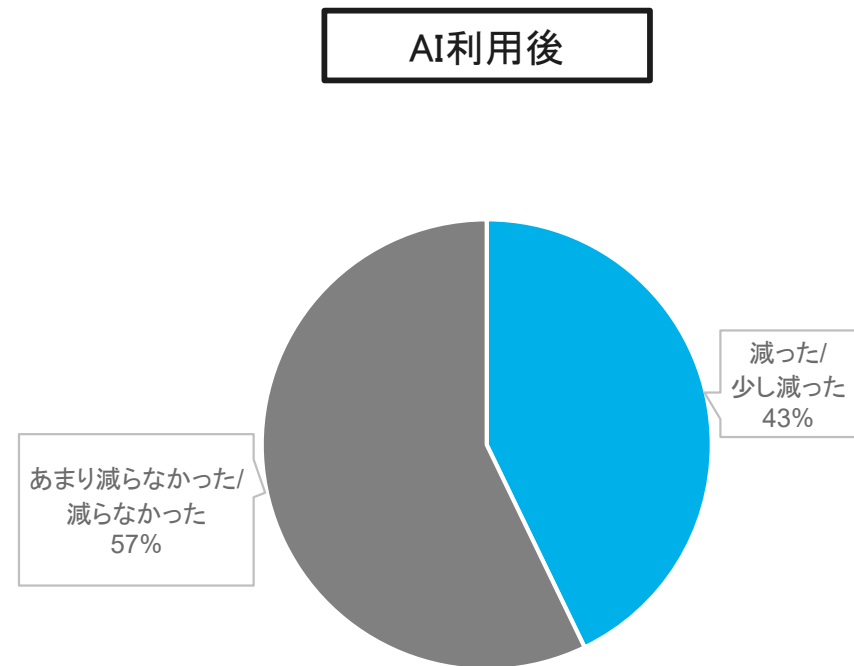


図19: AIシステムを活用することで、訪問時に「聞き忘れた」、「視点不足」と感じるものが減ったか確認。
(n=21)

4.アセスメント業務について①-2

●AIシステム利用により、「聞き忘れた」、「視点不足」が「減った・少し減った」と回答した人は以下の効果を実感した

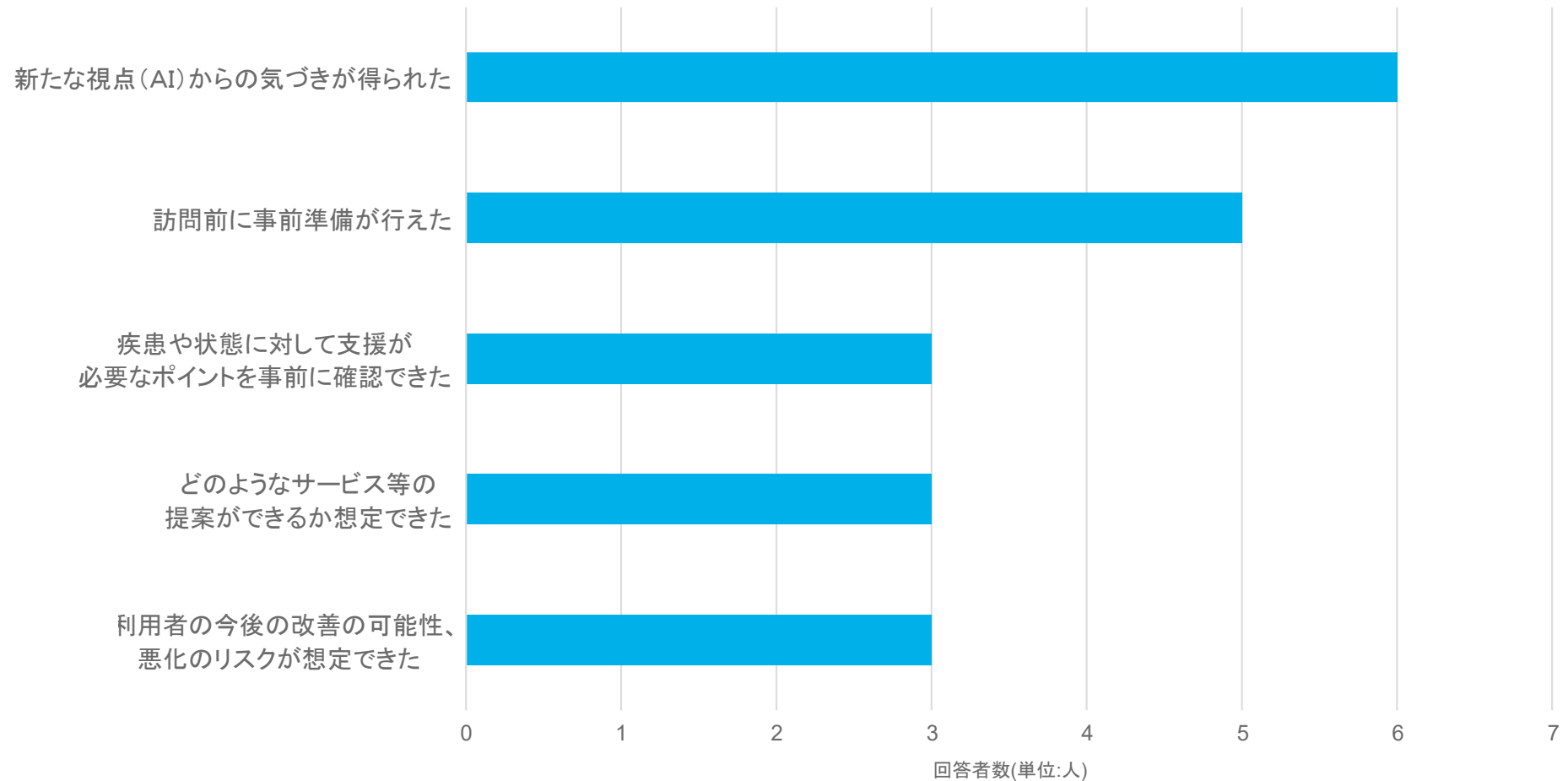


図20: 「減った・少し減った」と回答された方にAIシステムの活用により行えたことを確認。
(複数回答可)

4.アセスメント業務について②

●AIシステム利用後の初回アセスメントにおけるニーズの把握(情報収集)にかかる時間の変化を確認した

- ・AIシステムを利用することで、初回アセスメントにおけるニーズの把握(情報収集)にかかる時間が短縮できた。
- ・AIシステムの利用後は、「3時間以上」「1時間以上」要していたケアマネジャーが減少し、「30分未満」のケアマネジャーも確認できた。

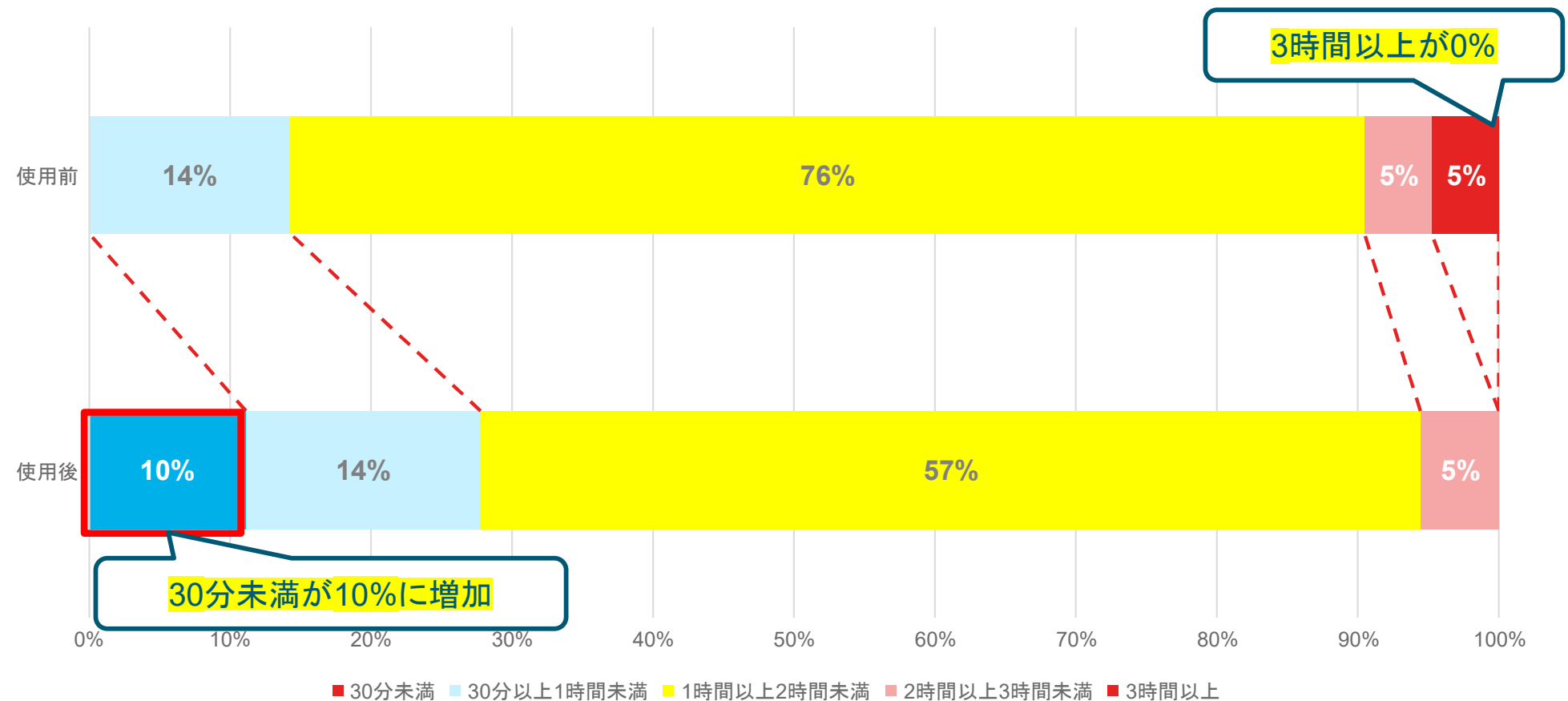


図21:初回アセスメントにおけるニーズの把握(情報収集)かかる時間について
(n=21)

4.アセスメント業務について③

●AIシステム利用後の課題分析にかかる時間の変化を確認した

- ・AIシステムを利用することで、課題分析にかかる時間が短縮できた。
- ・AIシステムの利用後は、「30分未満」のケアマネジャーが増加したことが確認できた。

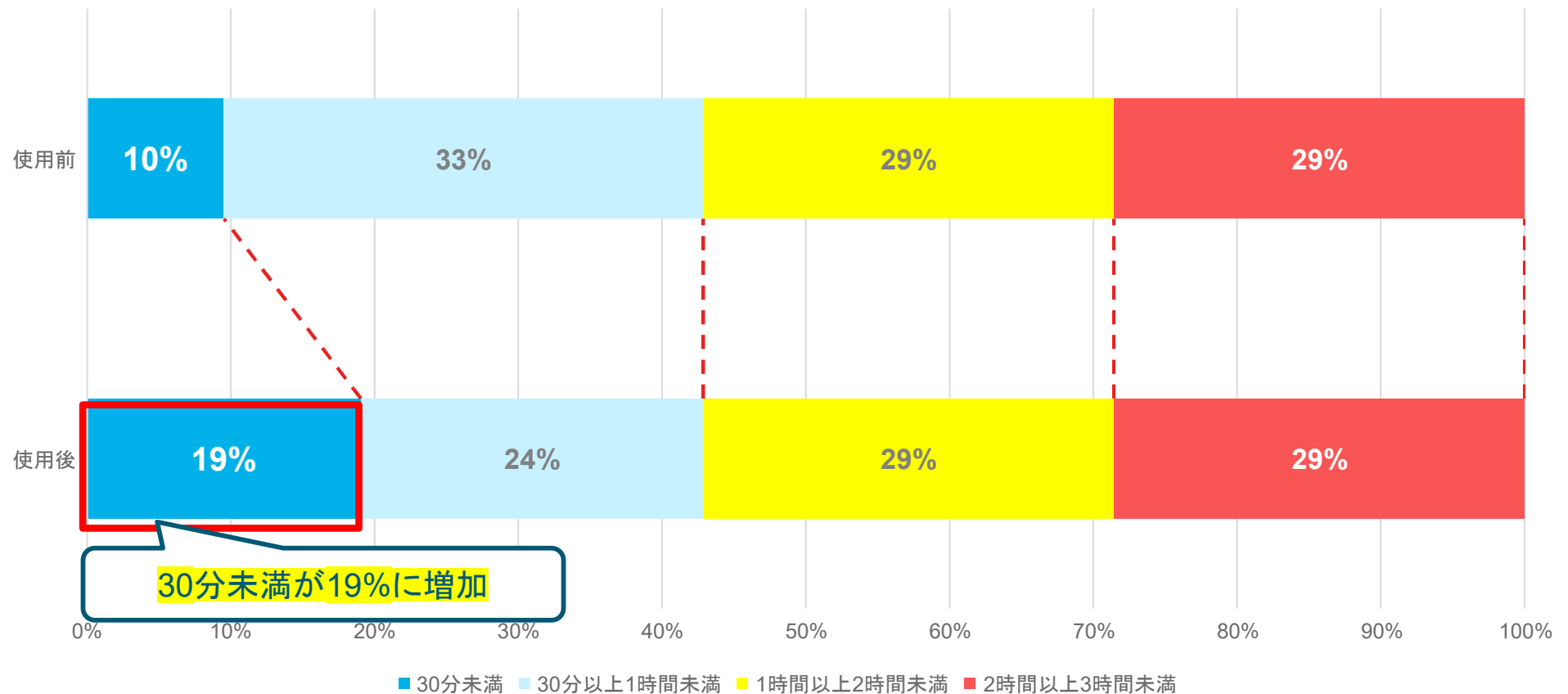


図22:課題分析(アセスメント等)にかかる時間について
(n=21)

4.アセスメント業務について④

●ニーズの把握(情報収集)の際に、AIシステムが及ぼす効果について

・ニーズの把握(情報収集)の際に、43%のケアマネジャーがAIシステムを活用した。

●活用した方は以下の効果を実感している

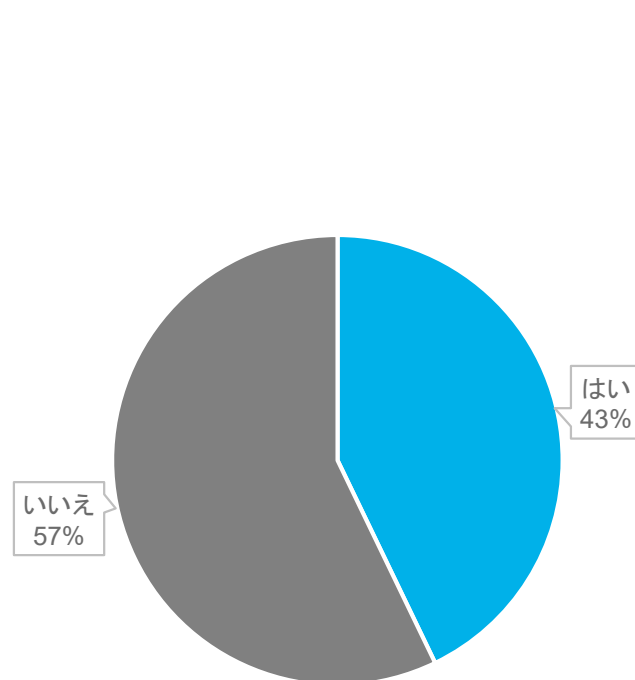


図23:ニーズの把握(情報収集)の際に、AIシステムを活用できましたか確認
(n=21)

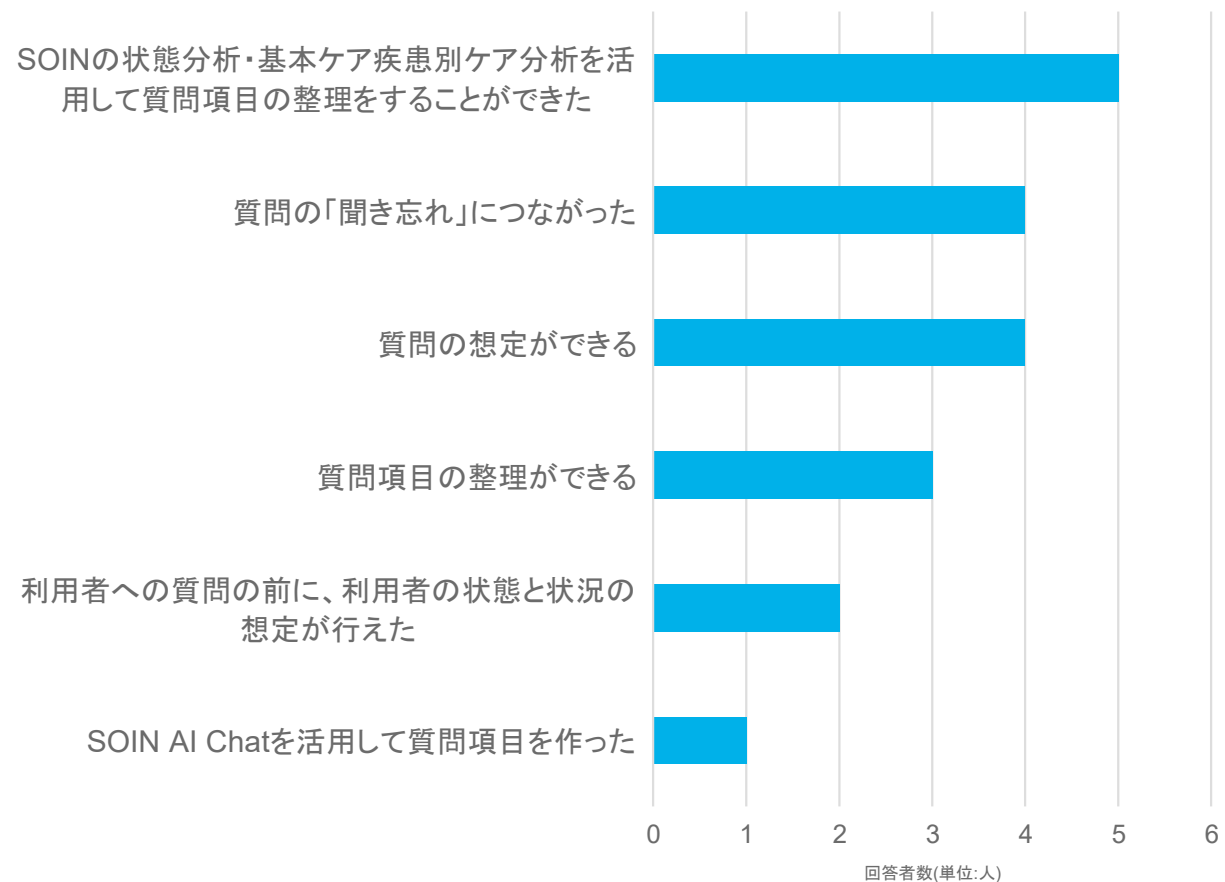


図24:「はい」の方にAIシステムの活用により行えたことを確認
(複数回答可)

4.アセスメント業務について⑤

- 課題分析（アセスメント等）の際に、AIシステムが及ぼす効果について
 - ・課題分析（アセスメント等）の際に、57%のケアマネジャーがAIシステムを活用した。
- 活用した方は以下の効果を実感している

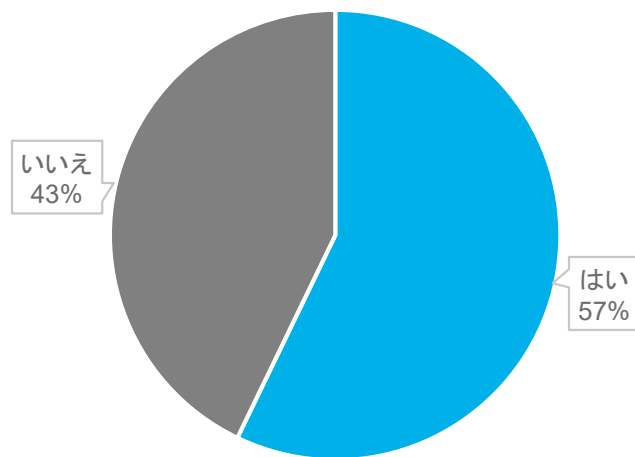


図25:課題分析（アセスメント等）の際に、
AIシステムを活用できたか確認
(n=21)

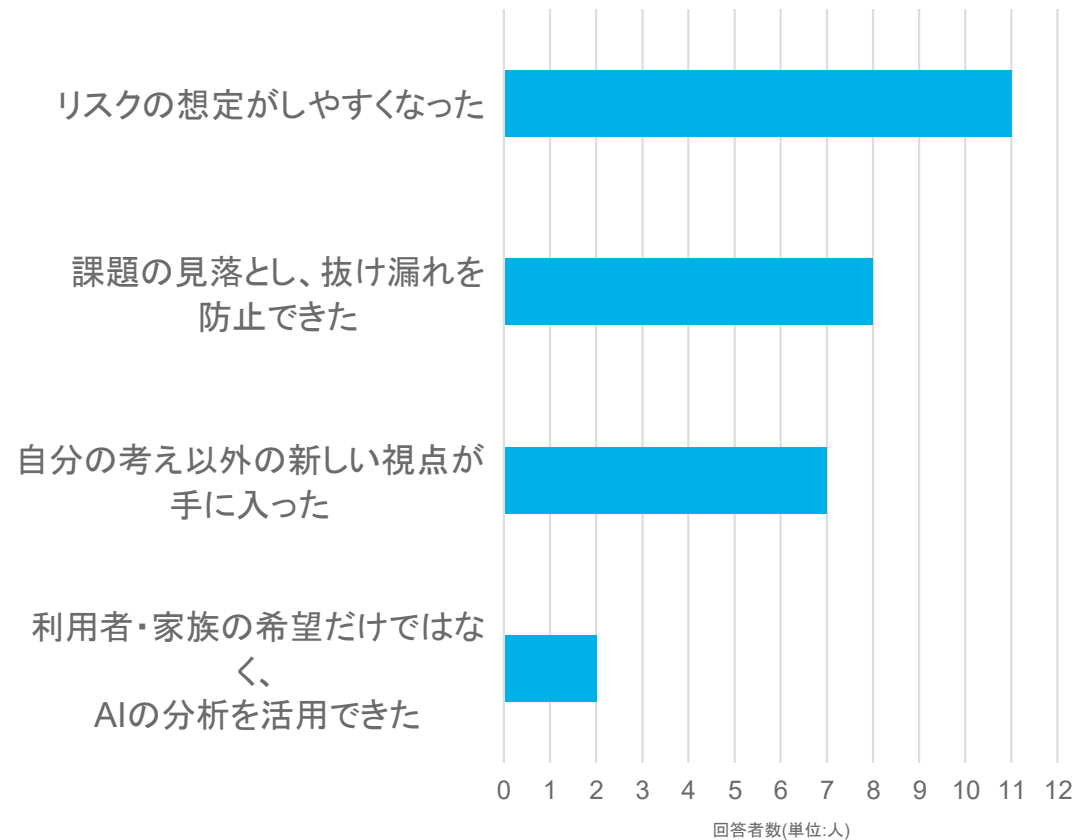


図26:「はい」の方にAIシステムの活用により行えたことを確認
(複数回答)

5.ケアプラン作成業務について①-1

●状態変化の予測について

- ・約6割のケアマネジャーは、利用者の1年後の状態変化を予測しながらケアプランを作成している。
- ・AIシステムの「約1年後の状態予測機能」については、予想できると答えた人の60%が「役に立った」「少し役に立った」と回答。

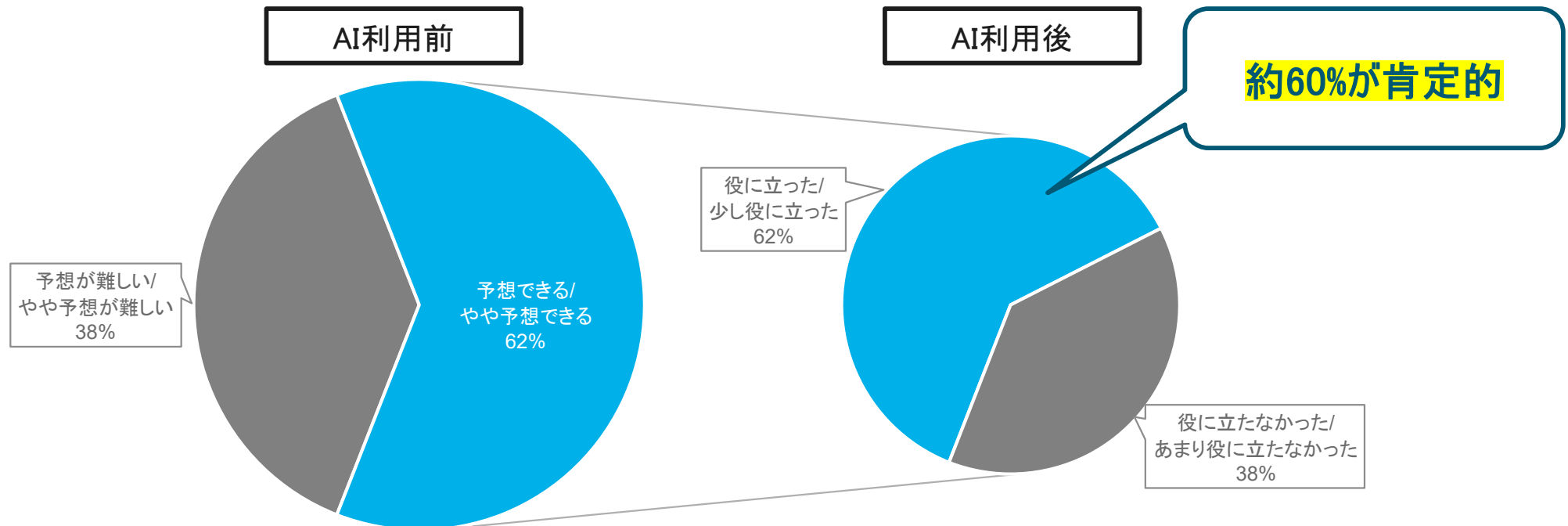


図27: 利用者の約1年後の状態変化について予想し、プランを作成していますか？
(n=21)

図28: 「約1年後の状態の予測」を棒グラフで表す機能があります。プラン作成時にこの機能は、役に立ちましたか？
(n=13)

5.ケアプラン作成業務について①-2

●状態変化の予測について

- ・約4割のケアマネジャーは、利用者の1年後の状態変化の予想を困難に感じてケアプランを作成している。
- ・AIシステムの「約1年後の状態予測機能」については、予想が困難に感じた人60%が「役に立った」「少し役に立った」と回答。

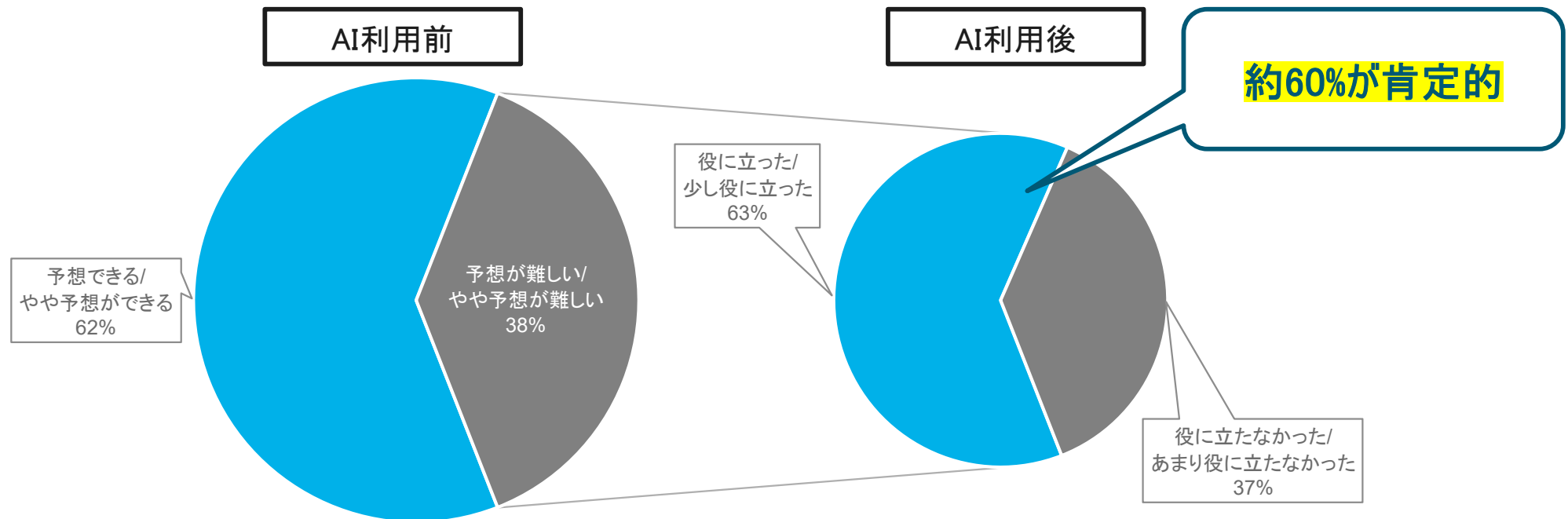


図27: 利用者の約1年後の状態変化について予想し、プランを作成していますか？
(n=21)

図28: 「約1年後の状態の予測」を棒グラフで表す機能があります。プラン作成時にこの機能は、役に立ちましたか？
(n=8)

5.ケアプラン作成業務について①-3

- AIシステム利用により、「約1年後の状態の予測」機能が「役に立った・少し役に立った」と回答した人は以下の効果を実感した

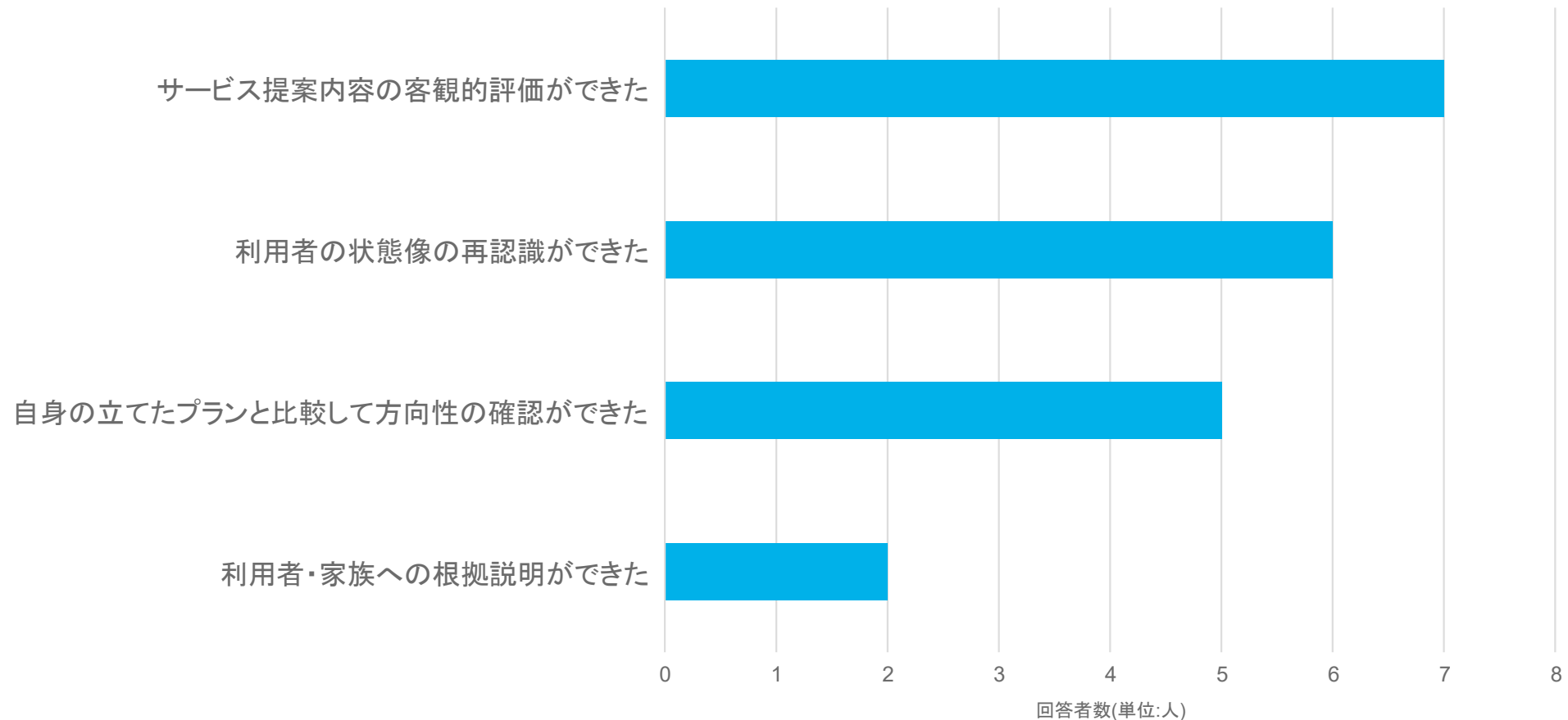


図29:「役に立った・少し役に立った」の方にどの場面で
AIシステムの機能を活用したか確認。
(複数回答可)

5.ケアプラン作成業務について②-1

●要介護度の予測について

- ・約4割のケアマネジャーは、要介護度を予測しながらケアプランを作成している。
- ・AIシステムの「約1年後の要介護度の予測」については、予想できていると答えた人の6割が「役に立った」と回答した。

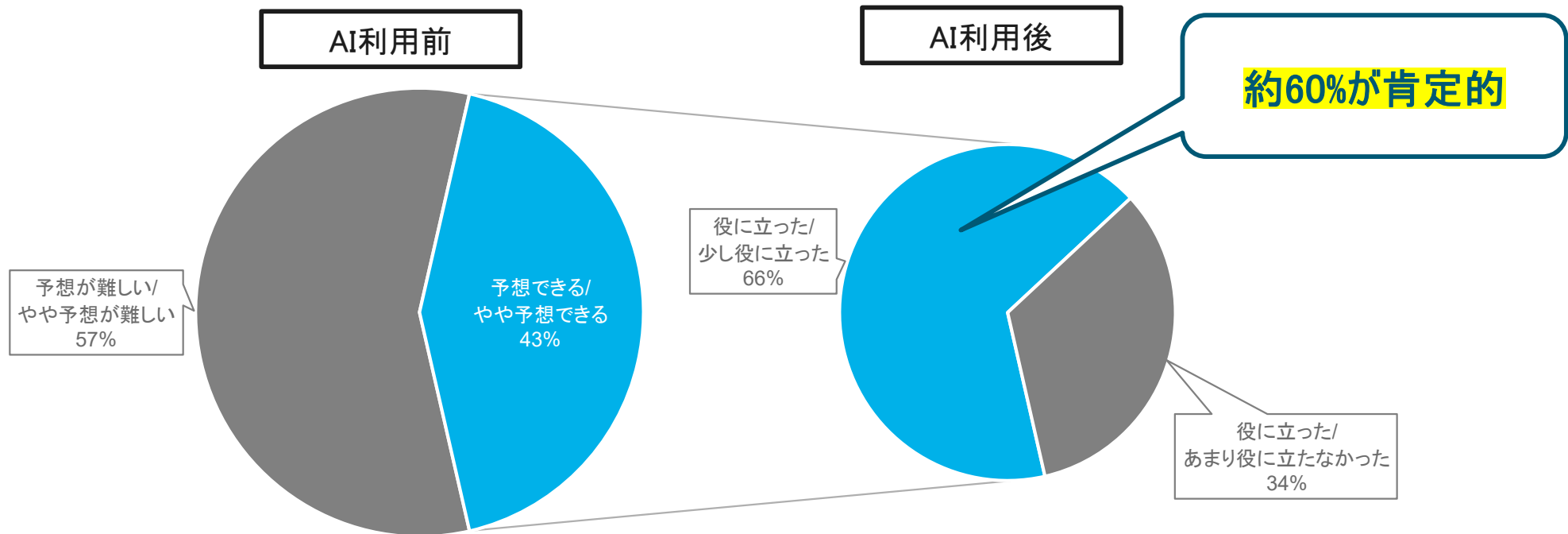


図30: 利用者の約1年後の要介護度の変化について予想し、プランを作成していますか？
(n=21)

図31: 「約1年後の要介護度の予測」をパーセンテージ(%)で表す機能があります。プラン作成時にこの機能は、役に立ちましたか？
(n=9)

5.ケアプラン作成業務について②-2

●要介護度の予測について

- ・約6割のケアマネジャーは、要介護度を予測が困難と感じてケアプランを作成している。
- ・AIシステムの「約1年後の要介護度の予測」については、予想が困難と感じている人の3割が「役に立った」と回答した。

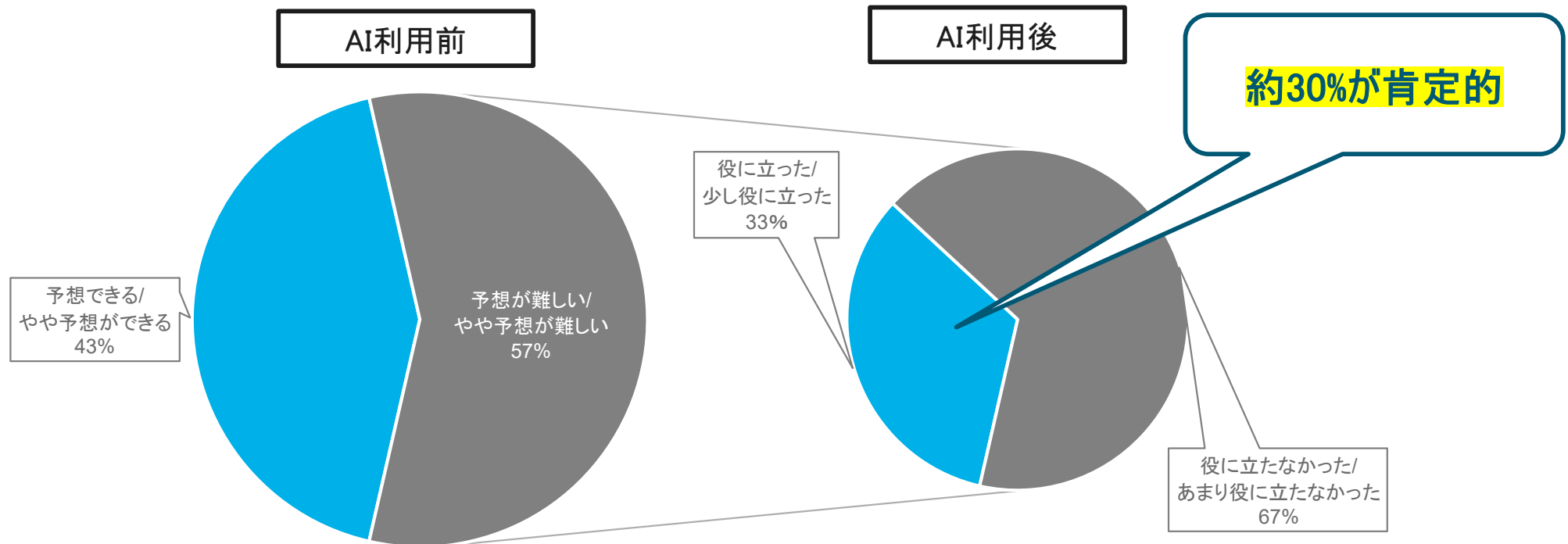


図30: 利用者の約1年後の要介護度の変化について予想し、プランを作成していますか？
(n=21)

図31: 「約1年後の要介護度の予測」をパーセンテージ(%)で表す機能があります。プラン作成時にこの機能は、役に立ちましたか？
(n=12)

5.ケアプラン作成業務について②-3

●AIシステム利用により、「約1年後の要介護度の予測」が「役に立った・少し役に立った」と回答した人は以下の効果を実感した

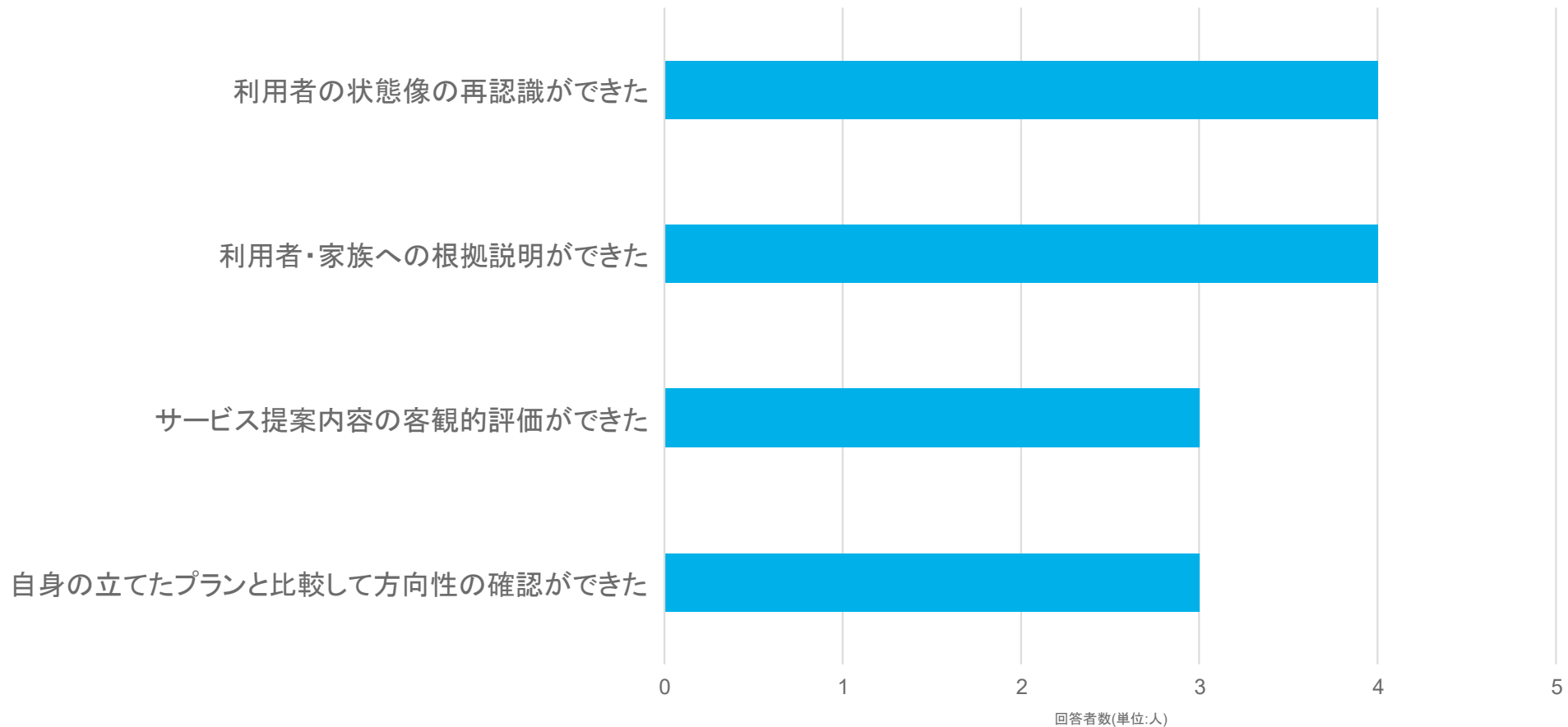


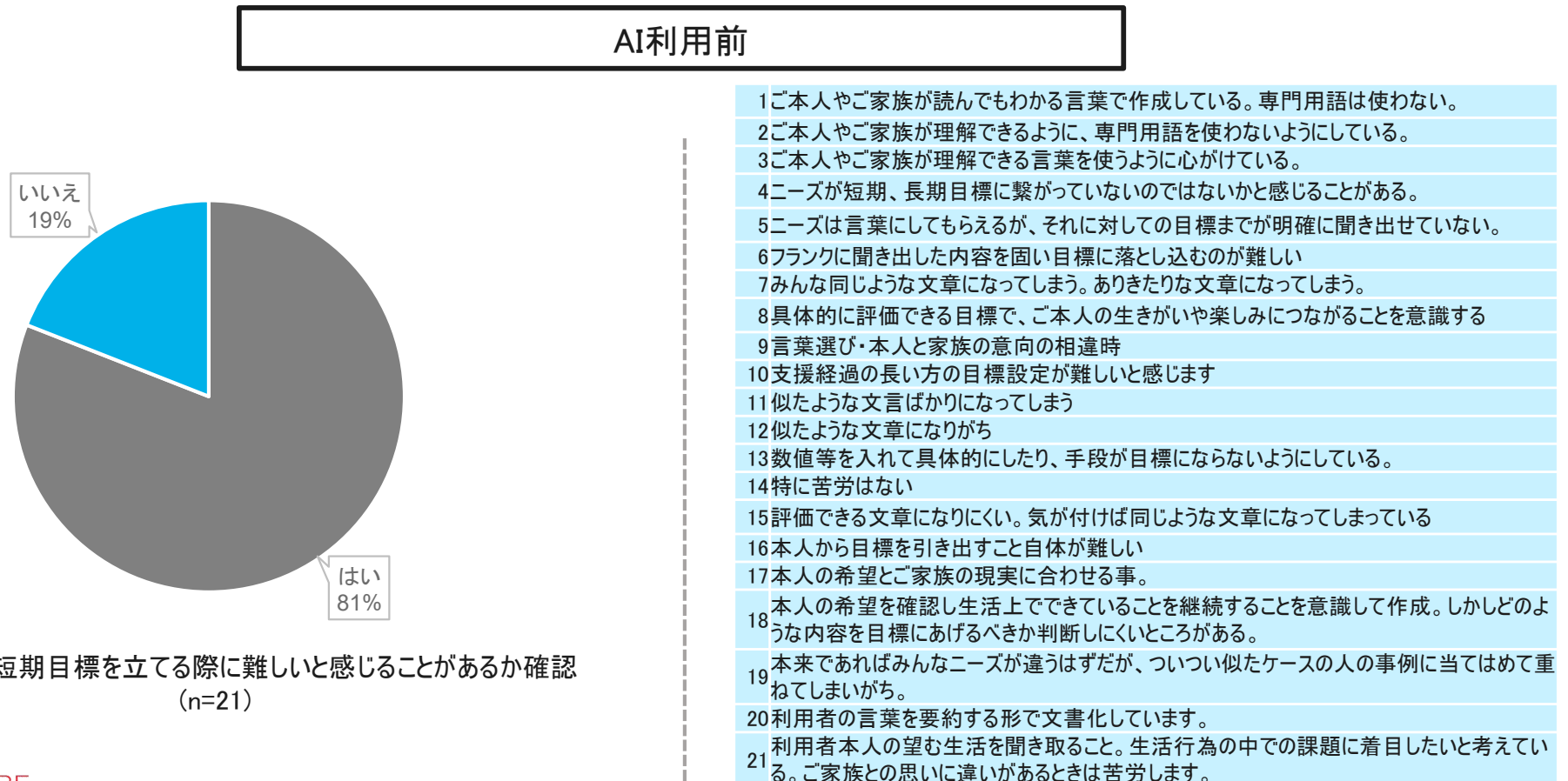
図32:「役に立った・少し役に立った」の方にどの場面でAIシステムの機能を活用したか確認
(複数回答可)

5.ケアプラン作成業務について③-1

●短期目標・長期目標について

・AIシステム利用前に事業参加者に長期・短期目標を立てる際に難しいと感じることがあるか確認したところ、ケアマネジャーの81%は、「はい」と回答。

・以下のような「苦勞していること」があげられている



5.ケアプラン作成業務について③-2

●短期目標・長期目標について

・AIシステム利用後にケアマネジャーにケアプラン作成時に短期目標・長期目標を作成する上で、AIシステムの分析は、役に立ったか確認したところ、ケアマネジャーの62%は、「はい」と回答。

・AIシステム利用により、短期目標・長期目標を作成する上で、「役に立った・少し役に立った」回答した人は以下の効果を実感した

AI利用後

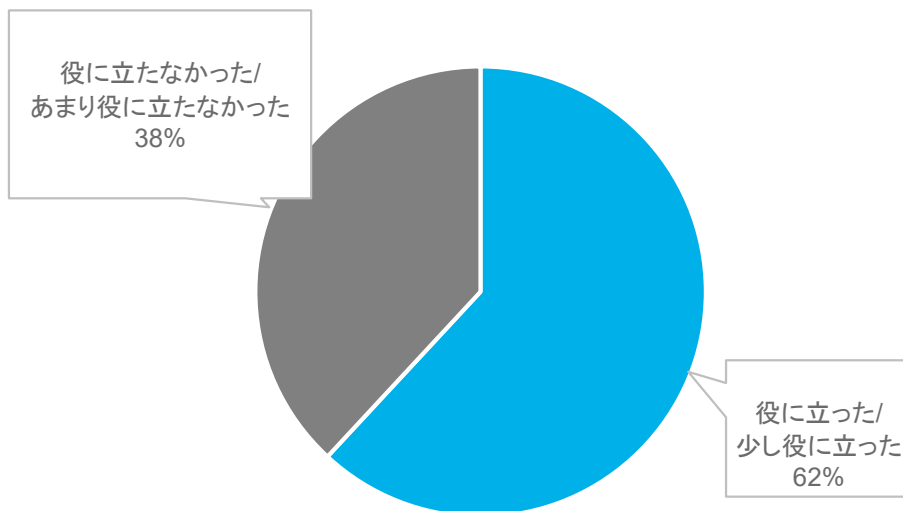


図34: ケアプラン作成時に短期目標・長期目標を作成する上で、AIシステムの分析は、役に立ったか確認 (n=21)

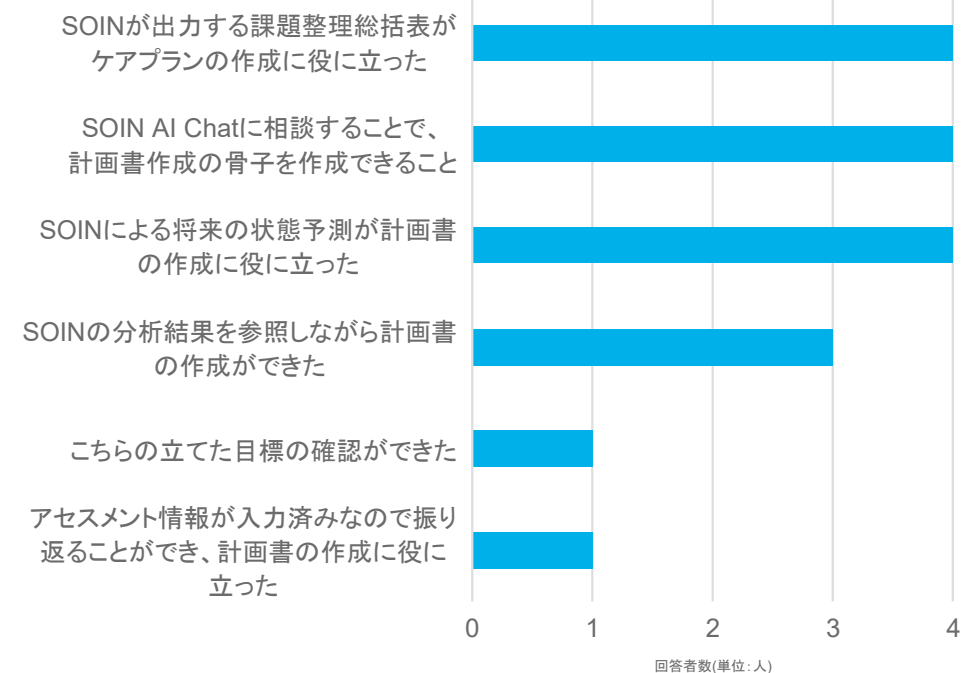


図35: 短期目標・長期目標を作成する上で、AIシステムのどの機能が役に立ったか確認(複数回答可)

6.サービス担当者会議等調整業務について①-1

●利用者・ご家族に相談する際について

- ・ケアプランの方針・目標・根拠の説明に苦労していると回答したケアマネジャーは71%に上った。
- ・そのうち47%のケアマネジャーが「役に立った」と回答した。

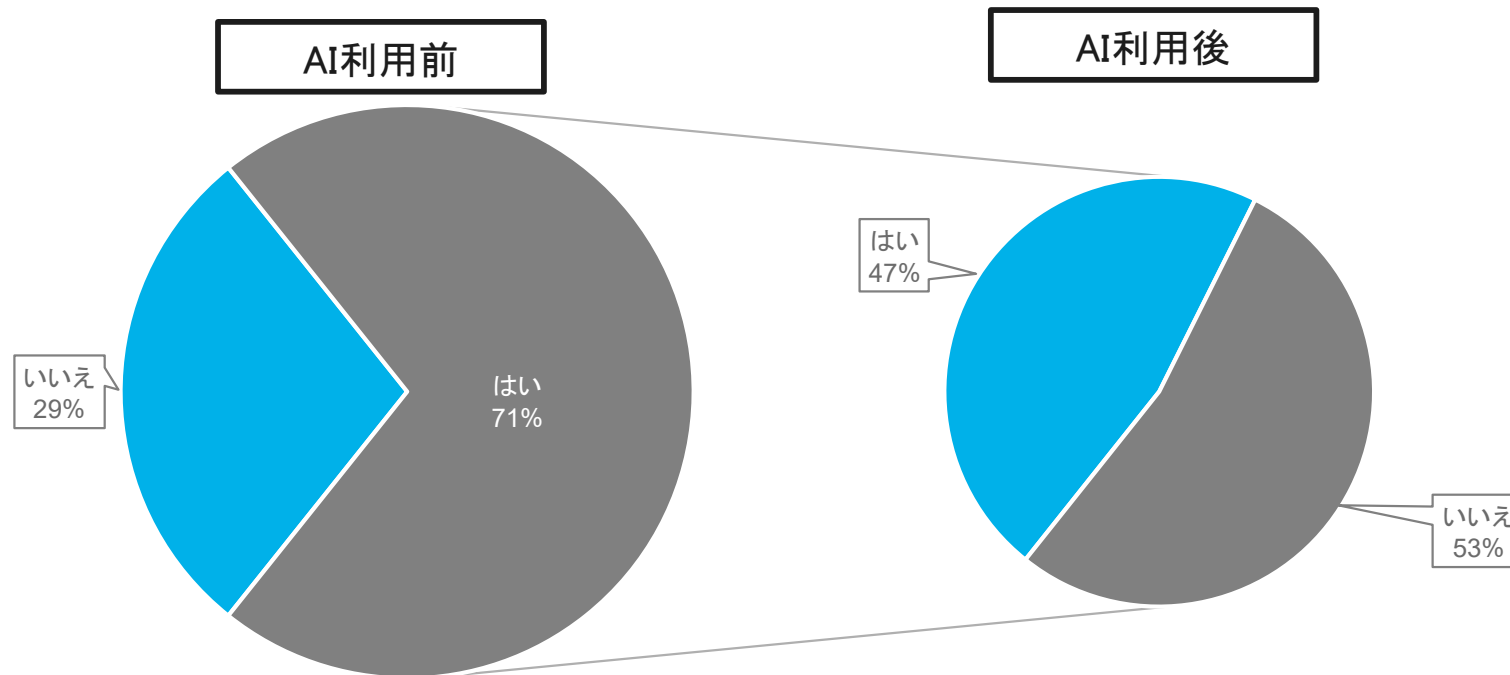


図36: ご自身のケアプランの方針・目標・根拠を利用者・ご家族に説明するときに苦労するときがあるか確認 (n=21)

図37: ご自身のケアプランの方針・目標・根拠を利用者・ご家族に説明するときにAIシステムが役立ったか確認 (n=15)

6.サービス担当者会議等調整業務について①-2

- AIシステム利用によりご自身のケアプランの方針・目標・根拠を利用者・ご家族に説明するときにAIシステムが「役立った」と回答した人は以下の効果を実感した。

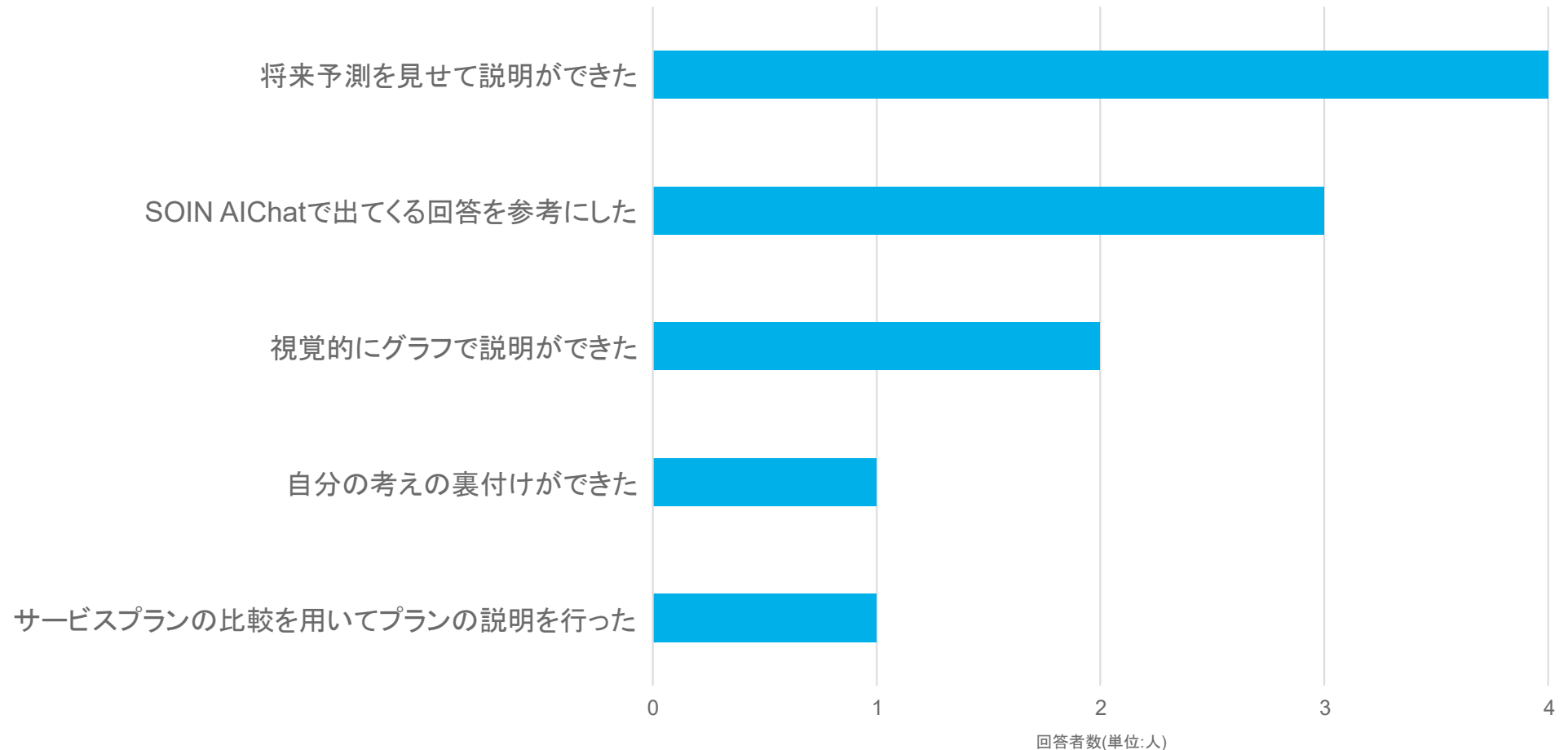


図38:「はい」の方に、どの機能が役に立ったか確認
(複数回答可)

7.新人・若手のケアマネジャーの育成・自己学習について①-1

●新人・若手の育成を行う時間の確保について

- ・事前アンケートでは81%が育成に「とても困っている」と「やや困っている」と回答。
- ・AIシステム導入後はそのうち35%が「良い変化があった」「やや良い変化があった」と回答。

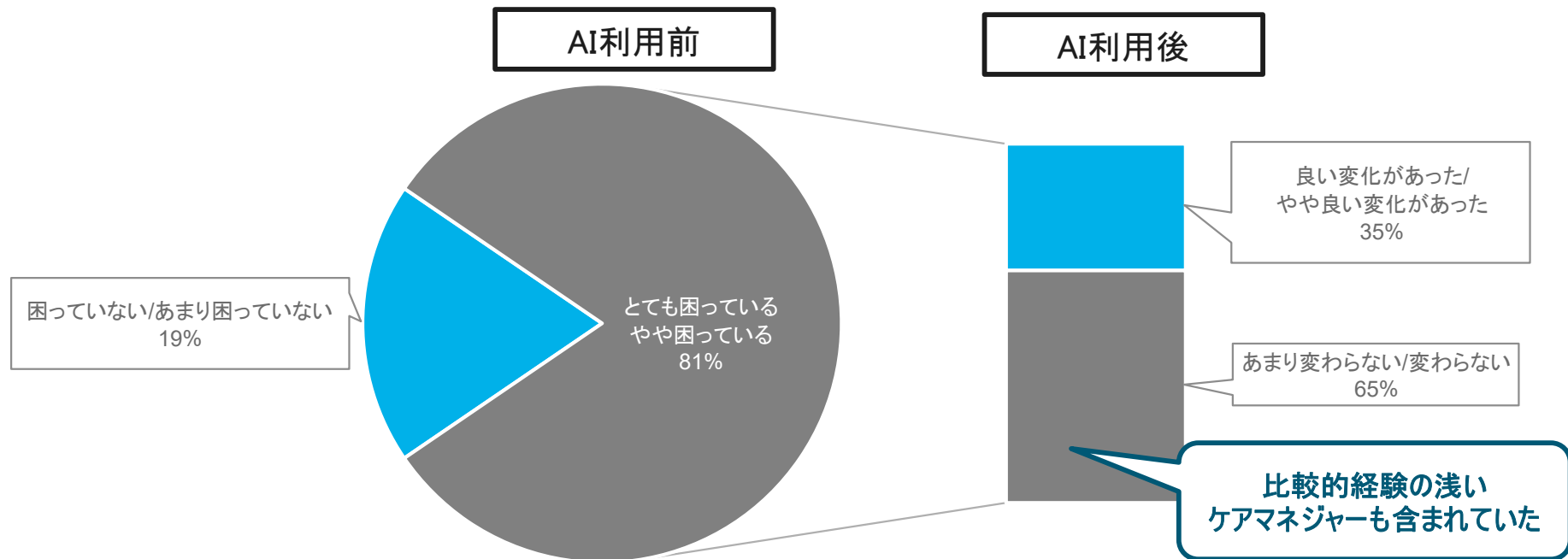


図39: 新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に十分に時間を確保できずに、困ることがありますか？
(n=21)

図40: 新人・若手のケアマネジャーの育成を行うための業務に変化はありましたか？
(n=17)

7.新人・若手のケアマネジャーの育成・自己学習について①-2

●新人・若手の育成を行う際に効果的な教育について

- ・事前アンケートでは86%が「効果的に教育できていない」と回答。
- ・AIシステム導入後では、67%が「有効である」「概ね有効である」回答。
- ・前ページのことから、AIシステムは、時間創出にとどまらず、効果的な教育の実現に貢献することが確認できた。

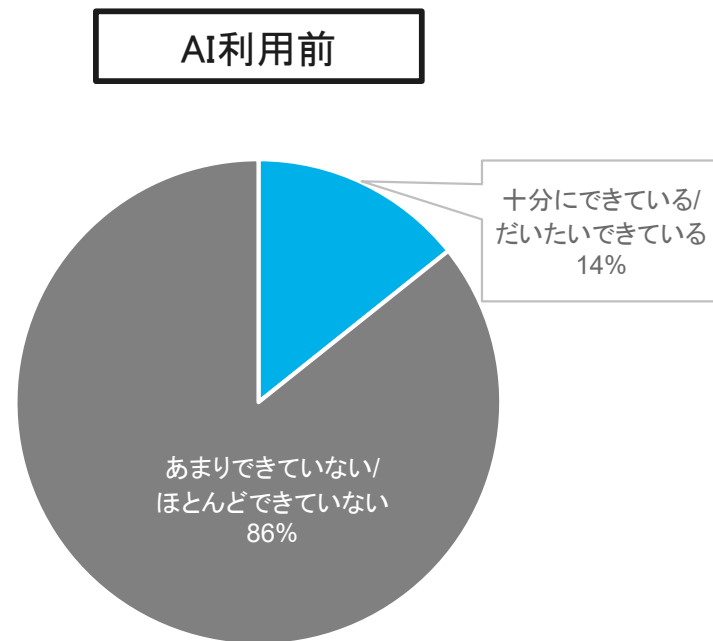


図41: 新人・若手のケアマネジャーの育成を行う際に効果的に教育を実施できているか確認
(n=21)

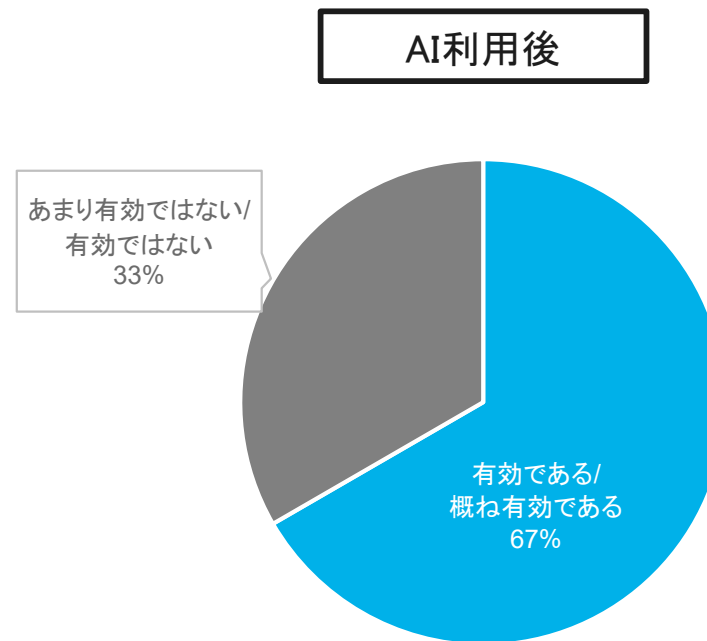


図42: 新人・若手のケアマネジャーの育成を効果的に行うにあたり、AIシステムが、有効であると思うか確認
(n=21)

7.新人・若手のケアマネジャーの育成・自己学習について②-1

●AIシステム利用により、「新人・若手のケアマネジャーの育成を行うための業務に変化」が「良い変化があった・やや良い変化があった」と回答した人は以下の効果を実感した

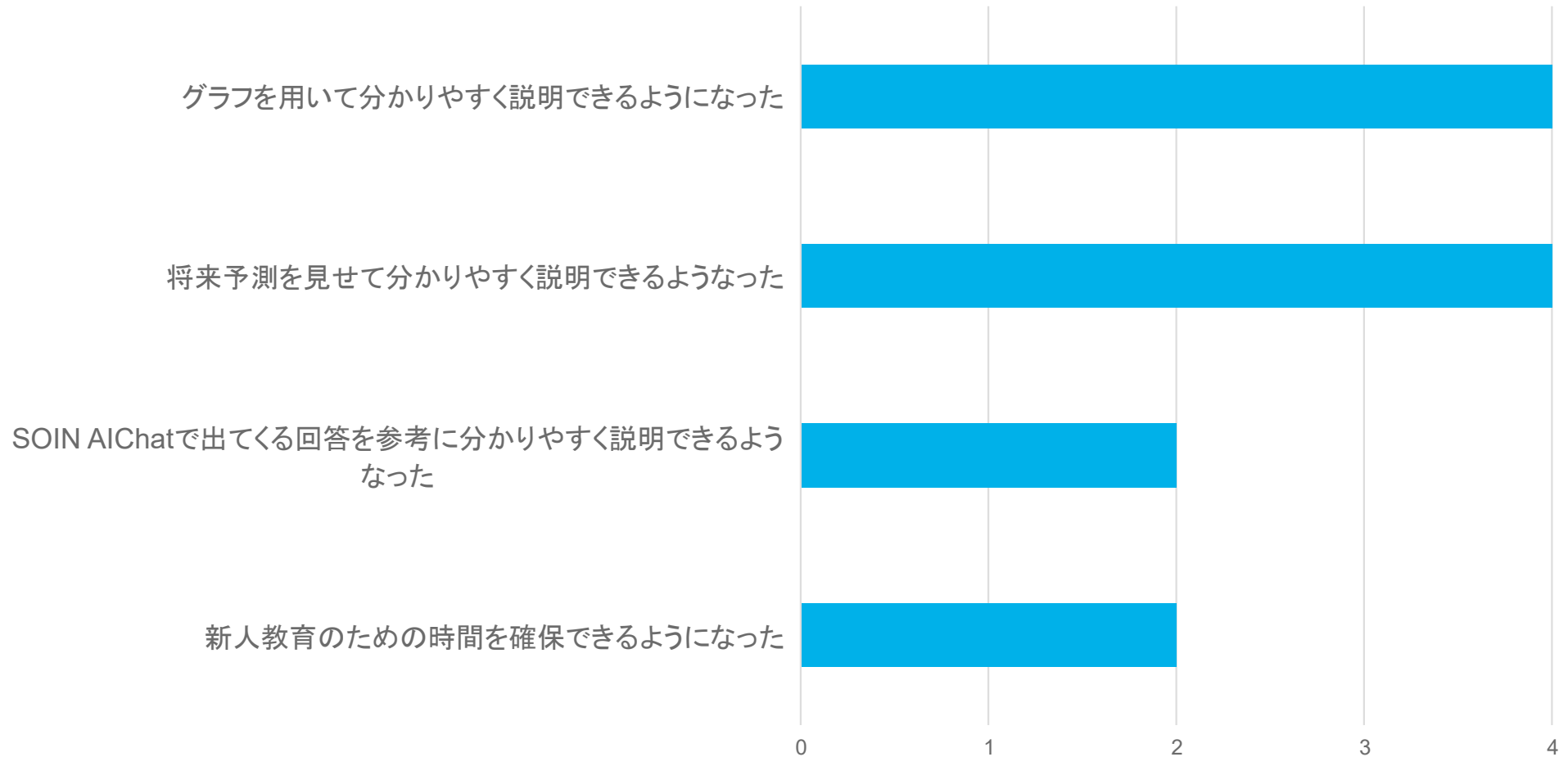


図43「良い変化があった・やや良い変化があった」の方に業務が変化したことについて確認。
(複数回答可)

7.新人・若手のケアマネジャーの育成・自己学習について②ー2

●AIシステム利用により、「新人・若手のケアマネジャーの育成を効果的に行うにあたり、AIシステムが有効か」の質問に「有効である・おおむね有効である」と回答した人は以下の効果を実感した

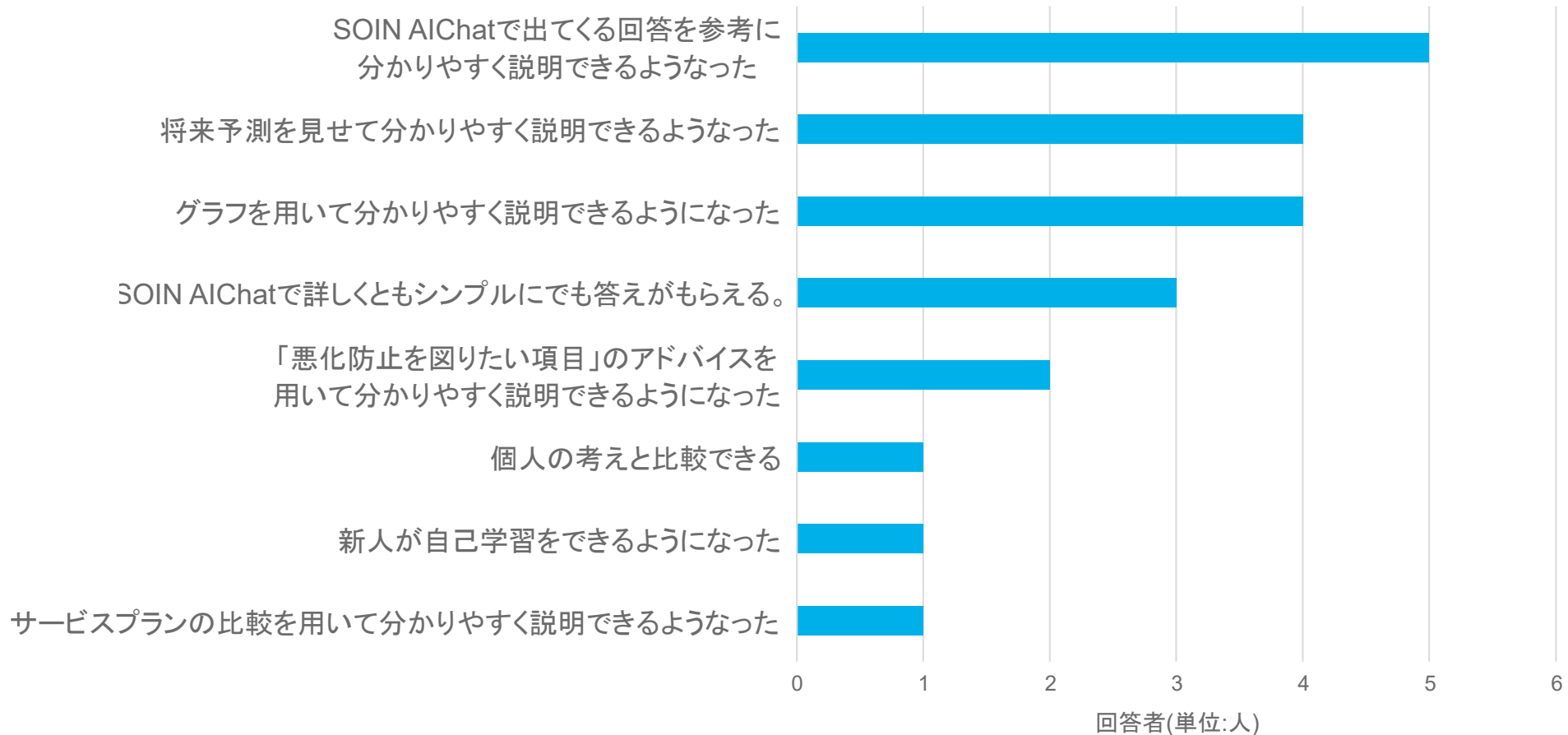


図44:「有効である・おおむね有効である」の方に有効と
思われた理由を確認した。
(複数回答可)

7.新人・若手のケアマネジャーの育成・自己学習について③

● AIシステム利用後に「自身の知識補完」について有効か確認した。

- ・AIシステムは日常業務における知識補完に有効であったと感じたケアマネジャーが71%にのぼった。
- ・「課題分析(14名)」「アセスメント(13名)」「ケアプラン作成(11名)」では高い評価を得ており、業務の基盤となる重要なプロセスでAIが有効に機能していることがうかがえる。
- ・「モニタリング(10名)」や「インテーク(8名)」でも一定の活用が見られ、継続的な支援や初期対応の場面でも役立っていることがわかる。
- ・一方で、「サービス担当者会議」や「多職種連携」などの対人業務での活用は比較的少なかったものの、退院前カンファレンス(7名)での活用も見られた。

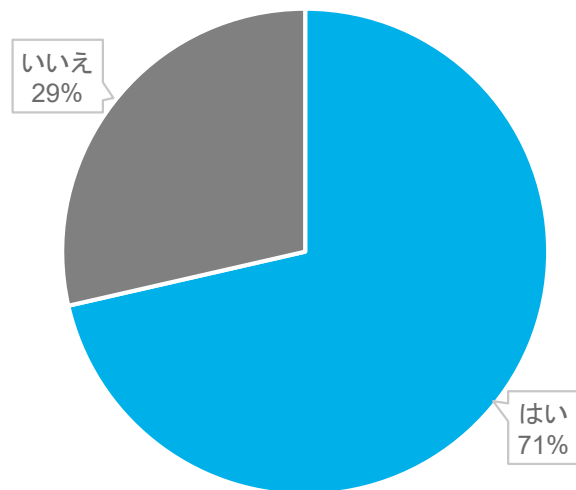


図45: AIシステムが日常の業務の中で、知識の補完に役に立ったか確認
(n=21)

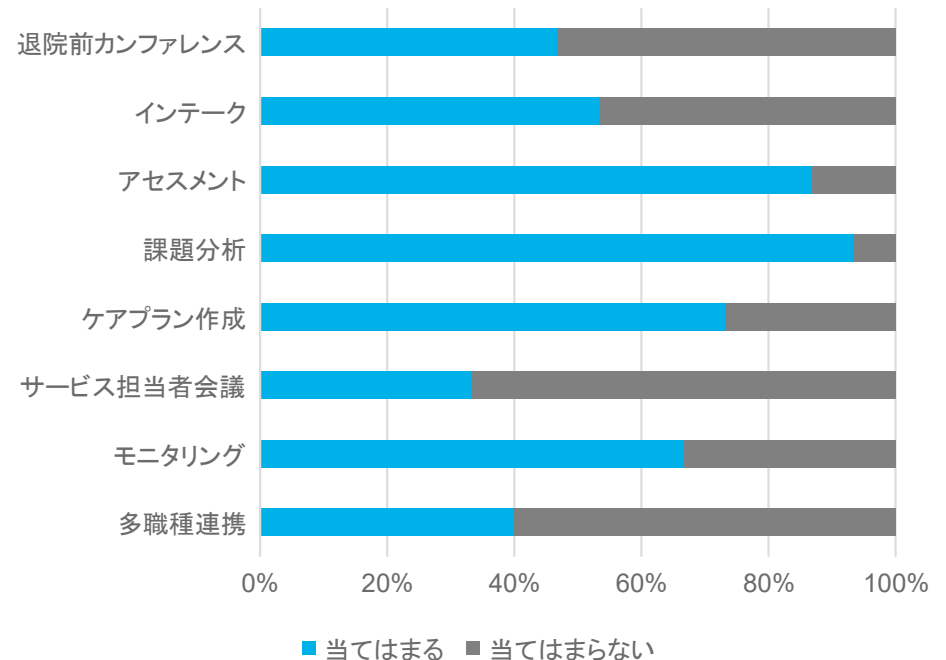


図46: 「はい」と回答した人にどの場面で役に立ったか確認した
(n=15)

8.AIシステムについて

●AIシステムについてどのような場面でAIシステムが役に立つか確認した。

・特に 知識補完(90%)やケアプラン作成(86%)、アセスメント(81%)において高い評価を得ており、情報の精査や意思決定のサポートとして有用であることが示された。また、新人・若手の教育(76%)やモニタリング(71%)にも有効であり、業務の質向上に寄与する可能性がある。

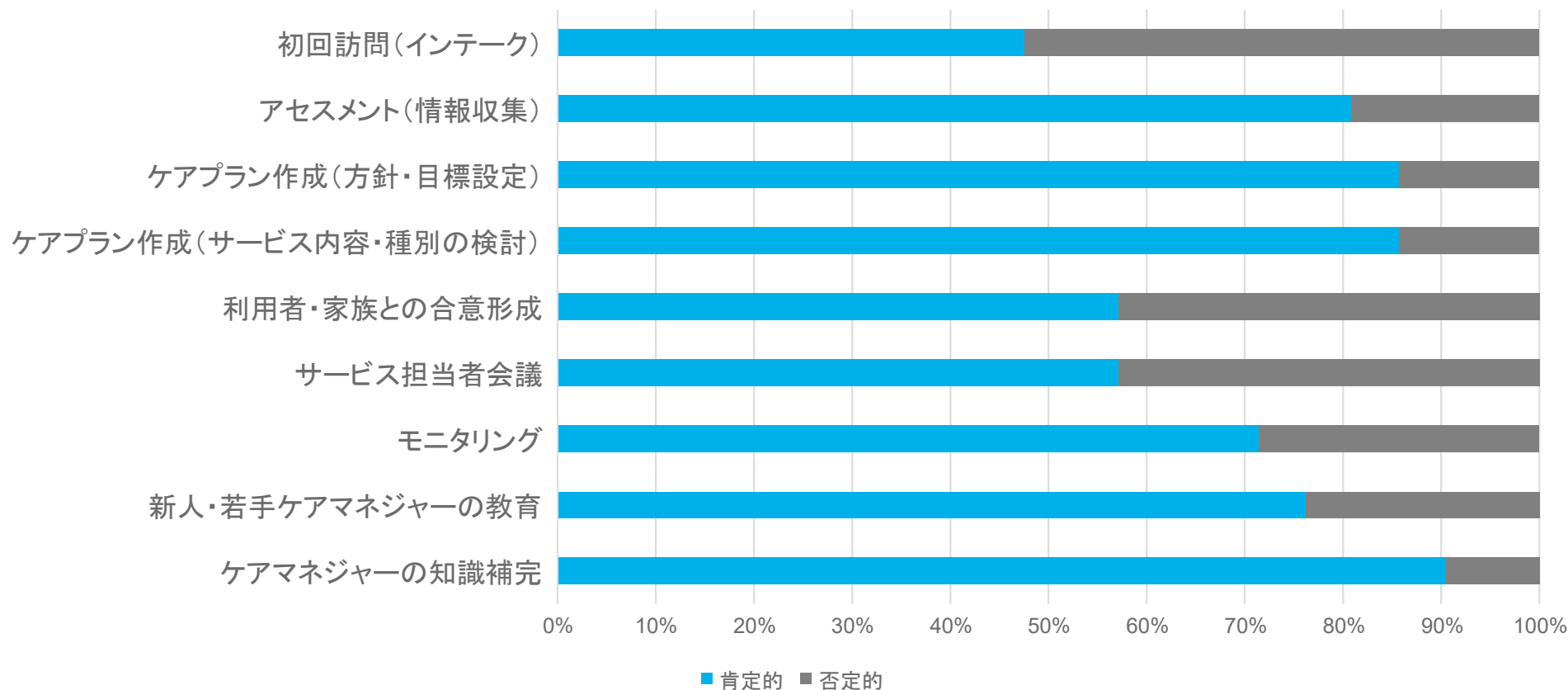


図47:AIシステムはケアマネジメントのプロセスにおいて、どのような場面で役立つか確認した。
(n=21)